

權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百二十二條ノ二

遺留財産ノ廢止ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財産ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス遺留財産ノ相續人ナキトキ亦同シ(追加四十四年法律第十二號)

第四百二十三條

華族世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク華族世襲財産ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス(改正五年法律四十五號)

第四百二十四條

假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十五條

第三條ニ掲ゲタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判力確定シタルトキ訴ノ取下

アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ、又ハ請求ノ目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ滯遲ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四十六條

登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百四十七條

登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百四十八條

第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル

差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四百四十九條

第三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但シ其不動産ノ爲メニ存スル地役權登記ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四十九條ノ二

登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者、登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ一ヶ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第四百四十九條ノ三

異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十九條ノ四

前條第二項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四百四十九條ノ五

異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判力確定シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章 抗 告

第二百五十條

登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條

抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第二百五十二條

抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其證據ト爲スコトヲ得ス

第二百五十三條

登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日内ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス
登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當

ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係上ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官更ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ贈本ヲ送達スルコトヲ要ス

第五十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第五十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲スコキハ命令ヲ爲シタル裁判所ノ命令ノ年月日ヲ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルト

キニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得
第五十四條 乃至 **第五十七條**ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
第五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所買入書入規則又ハ同八年第四百八號布告建物書入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

場合ニ於ケル登記番號ハ從來ノ番號ヲ追ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 從前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ本法ニ依ル登記簿ニ繼續用紙ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ乙區事項欄ニ登記ヲ爲スコキハ新ナル順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條 所有權以外ノ權利ニ關スル登記ノ前後ハ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノト

本法ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノトノ間ニ在リテハ受附番號ニ依ル

第七條 從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタル所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ付キ本法ニ依ル登記簿ニ附記登記ヲ爲ス場合ニ於テハ主登記ヲ爲シタル區ノ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ本法ニ依ル登記簿ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキハ受附番號ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載ノ其左側ニ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ於ケル區ノ名稱及ヒ順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

百八十九

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙中新登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

附則 (大正二年四月法律第十八號)
第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正二年六月一日ヨリ施行)

第二條 本法施行前ニ登記所ノ受附タル事件ハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

第三條 本法施行前ニ調製シタル登記簿ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ關スル從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第四條 本法ニ依ル登記簿ニ始メテ登記ヲ爲ス

第九條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十條 明治三十九年法律第五十五號ハ之ヲ廢止ス

●不動産登記法施行細則

(明治三十二年五月十二日)
(司省令第十一號)

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ(改正五年省令二十四號)

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出テ附スヘシ

第三條 土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ハ

百九十

附錄第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ(改正同上)

第四條 登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ(但書削除大正二年省令第十五號)

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第五條 登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記見出帳ハ附錄第三號雜形ニ依リ土地分合登記見出帳ハ附錄第四號雜形ニ依リ建物登記見出帳ハ附錄第五號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス毎ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相

當ノ部(十百千ノ數ヲ冠スルモノハ一ノ部ニ記入スルノ類)ニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ但土地分合併ニ因リ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入ノ其見出ヲ朱抹スヘシ

第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ番號ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲモ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ

第十一條 受附帳ハ附錄第六號雜形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第十二條 受附番號ハ一年毎ニ更新スヘシ

第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場

合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ゲタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ(改正二年省令第十五號、五年第二四號)

- 一 圖面綴込帳
 - 二 印鑑簿
 - 三 共同擔保目録綴込帳
 - 四 申請書類綴込帳
 - 五 決定原本綴込帳
 - 六 抗告書類綴込帳
 - 七 評價事件簿
 - 八 評價書類綴込帳
 - 九 印鑑證明書類綴込帳
 - 十 本登記簿交付帳
 - 十一 土地登記簿通知簿
 - 十二 謄本抄本交付帳
 - 十三 各種通知簿
 - 十四 受領證原符元帳
 - 十五 還納受領證綴込帳
- 前項第三號乃至第十五號ノ帳簿ハ一年毎ニ

百九十一

別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第十四條ノ二 削除(五年省令二四號)

第十五條 申請書、囑託書、通知書、許可書、管轄

轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿本、登記

立會調書其他ノ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ

依リテ申請書類編入帳ニ之ヲ編綴スヘシ(改

正五年省令二四號)

第十六條 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附

番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ

依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十六條ノ二 共同擔保目錄ノ表紙ニハ申請書

受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ受附番號

ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ番號ヲ附スヘシ

(追加二年省令第十五號)

第十六條ノ三 共同擔保目錄ハ一年毎ニ其番

號ヲ更新スヘシ(同上)

第十七條 不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依

リ申請書ニ添附シタル書面二通ノ内一通ハ登

記所ニ之ヲ保存スヘシ

第十八條 第十四條第十三號ノ通知簿ニハ不動

產登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第

六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第

百九十二

七十五條第一項、第百三條ノ二、第百十四條

第二項、第百二十六條第二項、第百二十七條

ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三

條第二項及ヒ本令第六十二條第一項、第六十

三條第一項、第六十九條、第六十九條ノ二ノ

通知事項、通知ヲ受ケル者及ヒ通知ヲ發スル

年月日ヲ記入スヘシ(改正五年省令第二十四

號)

第十九條 評價事件簿ハ附錄第七號雜形ニ依リ

之ヲ調製スヘシ(同上)

第十九條ノ二 削除(五年省令二四號)

第二十條 事變ヲ避ケル爲メ登記簿又ハ其附屬

書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏

ハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十一條 裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其

他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令又ハ囑託アリ

タルトキハ登記官吏ハ其關係アル部分ニ限リ

之ヲ送付スヘシ

第二十二條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタ

ルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク其事由、年月日、

滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二

十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ

記載シ且回復登記期間ヲ豫定シ且地裁判所長

ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄

區裁判所ヲ經由スヘシ

地方裁判所長カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ

相當ノ調査ヲ爲シタル後司法大臣ニ具申ヲ爲

スヘシ

第二十三條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル

虞アルトキハ詳細其狀況ヲ取調ヘ且處分方法

ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申報又ハ具申ヲ爲スヘ

シ

第二十四條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又

ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作り地

方裁判所長ノ認可ヲ受ケヘシ但區裁判所出張

所カ認可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由ス

ヘシ

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ所

在地ノ市、區、町村長(市、區、町村長ナキ地ニ

於テハ其職務ヲ行フ吏員)ノ證明ヲ得タル印

鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出ス

ヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者

ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出

シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ハ不動産所

在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人又

ハ外國會社、登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登

記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一

ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 印鑑ハ附錄第八號雜形ニ依リ之ヲ

調製スヘシ

第二十七條 印鑑簿調製ノ様式及ヒ貼附ノ方法

等ハ地方裁判所長之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及ヒ公署

ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又

ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者

ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其

權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記

簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於

テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名

捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害

ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シ

タル書面ヲ添附スヘシ

百九十三

一 土地所在ノ郡、市、區、町、村字及ヒ土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

四 年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十二條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其番號ヲモ記載スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目録ハ半紙罫紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ(追加二年省令第十五號)

第三十四條 不動産登記法第二十一條第二項ノ

郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十四條 登記官吏カ第二十九條ノ申請書ノ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ

此謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙罫紙ヲ用ユヘシ

第三十五條ノ三 前條但書ノ規定ハ登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ルヘシ但請求ニ因リ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此場合ニ於テハ認證文ニ其旨ヲ附記スヘシ(追加二年省令第十五號)

本ノ交付ノ申請書ニ共同人名簿又ハ共同擔保目録ノ謄寫ヲ除ク旨記載アル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三十六條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、數、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載スヘシ(改正五年省令二四號)

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登記簿又ハ所屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十七條ノ二 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ(追加三十五年省令第十三號改正二年省令第十五號、五年省令二四號)

受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ
決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及ヒ印鑑證明書類綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ
本登記簿交付帳、土地登記簿通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領證原符元帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ
前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨ

リ之ヲ起算ス

第三十七條ノ三 共同擔保目録ハ先取特權、質權又ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ(追加二年省令第十五號)

第二章 登記申請ノ手續

第三十八條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但登録稅法第二條第一項第一號乃至第十七號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

登録稅法第十九條ノ五ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ(追加大正三年十月省令第八號)

第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十一條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ

跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十二條 不動産登記法第二百二十八號又ハ第三百三十條ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産カ建物ナルトキハ申請書ニ圖面ヲ添附スヘシ

第四十三條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號並ニ第三十七條ニ掲ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ(改正二年省令第十五號)

圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引、朱字ト爲スヘシ圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ二 共同擔保目録ハ附錄第九號雜形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ(追加二年省令第十五號)

第四十三條ノ三 申請人ハ共同擔保目録ノ表紙ニ不動産共同擔保目録ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ(同上)

共同擔保目録ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉

ノ綴目ニ契申ヲ爲スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第四十三條ノ四 共同擔保目録ニ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スニハ其表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ(同上)

第四十五條ノ五 實權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ實權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ(追加大正三年一月十四日司法省第三號)

第四十四條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登録稅法第二條第一項第十號、第十二號乃至第十六號、第二十一號但書及ヒ第二十二號但書ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ全額ヲ納付スヘシ(改正三十二年省令第二十五號)

通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ二 不動産登記法第二百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニハ共同擔保目録ノ番號又ハ登記番號及ヒ順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル(追加二年省令第十五號)

第四十四條ノ三 不動産登記法第二百二條ノ三第一項ノ規定ニ依リ當該官廳カ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ囑託書ニ河川法ノ規定ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ(同上)

第四十四條ノ四 法人又ハ外國會社ノ代表者カ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動産登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス(同上)

第四十四條ノ五 法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記

所ト異ナル場合ト雖モ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スルヲ以テ足ル(同上)

前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第四十四條ノ六 前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ戶籍吏ノ書面ヲ添附スル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第四十四條ノ七 不動産登記法第六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添附スルコトヲ要セス(同上)

第四十四條ノ八 申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還附ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原ニ相違ナキ旨ヲ記載シメル謄本ヲ添附スヘシ(同上)

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十四條ノ九 不動産登記法第四條第二項ノ規定ニ依ル管理財產タル旨ノ登記ノ囑託書ニハ管理人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ管理人

ノ改任ノ登記ノ囑託書ニ付キ亦同シ（追加大正五年九月二十日省令十九號以下三條ト共ニ）
 管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スベシ
第四十四條ノ十 不動産登記法第四百四條第三項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ管理人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
第四十四條ノ十一 不動産登記法第四百四條第三項ノ規定ニ依ル取得ノ登記及ヒ管理財産タル旨ノ登記ノ申請ハ同一ノ申請書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得管理財産ノ移轉ニ因リテ管理終了スル場合ニ於テ其移轉ノ登記及ヒ管理終了ニ因ル登記抹消ノ申請ニ付キ亦同シ
第四十四條ノ十二 管理財産ノ移轉其他ノ處分ニ因ル登記ノ申請書ニハ宮内大臣ノ認可書ヲ添附スヘシ
第四十五條 不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記簿謄本ヲ減失シタル旨ヲ記載スヘシ
第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ
 一 登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示友ヒ登記ノ

目的
 二 登記義務者ノ人達ナキコト
 三 保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號
 四 保證人ノ住所、年輪
 五 年月日

第四十六條ノ二 帝國ノ臣民又ハ法人カ明治三十四年勅令第七十九號第一條第二項ニ依リ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テ所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ永代借地權ノ抹消ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ（追加三十四年省令第十七號）
第四十六條ノ三 登録稅法第十九條ノ二ノ規定ニ依リ價格ヲ認定シタルトキハ之ヲ申請書ニ記載シ且書面又ハ口頭ヲ以テ告知スヘシ（追加大正三年十月省令第八號）
第四十六條ノ四 評價ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其請求書ニ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ（同上）
第四十六條ノ五 登録稅法第十九條ノ三ノ規定ニ依ル評定價格及ヒ課稅標準價格ハ遲滞ナク

書面ヲ以テ之ヲ評價請求者ニ告知スヘシ（同上）
 前項ノ告知書ニハ評價費用額ヲ記載シ且評價費用ノ豫納額ニ不足アルトキハ遲滞ナク納付スヘキ旨ヲ記載スヘシ
第四十六條ノ六 課稅標準價格確定シタルトキハ登記官吏ハ申請書ニ其價格及ヒ登録稅額ヲ記載スヘシ（同上）
第四十六條ノ七 登記申請人カ其負擔ヲ超エテ納付シタル登録稅額及ヒ評價費用額ノ還付ヲ請求シタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク其請求書ヲ地方裁判所長ニ送付シ且事件ヲ表示シテ左ノ事項ヲ報告スヘシ（同上）
 一 申告價格、認定價格、評定價格及ヒ確定價格
 二 既納及ヒ確定ノ登録稅額
 三 豫納及ヒ確定ノ評價費用額
 四 還付ヲ要スル金額
 五 還付ヲ受クヘキ者ノ氏名、住所
第三章 登記手續
第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取りタルトキハ遲滞ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査

スヘシ
第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ
第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ
 假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ
第五十條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ
第五十一條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス
第五十二條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ
 前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合
 百九十九

合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ

依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十四條 共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記

義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ
登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ記載シタル登記權利

者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナ

キトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側

二百

ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ、氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニハ登記ノ目的タル新ナル事項ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合

ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ二 不動産登記法第二百二十四條ノ

二ノ規定ニ依ル記載ハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ(追加二年省令第十五號)
前項ノ場合ニ於テハ共同擔保目錄ノ番號ヲモ

第五十七條ノ三 申請書ニ共同擔保ヲ目錄添附

シタル場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ其目錄ニ掲ケタル各不動産ニ關スル權利ノ表示ノ上ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、登記番號及ヒ順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目錄ノ番號ヲ記載スヘシ(同上)

第五十七條ノ四 不動産登記法第二百二十六條ノ

二ノ規定ニ依リ共同擔保目錄ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十三條ノ四ノ規定ニ依ル番號ヲ用ヒテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印ノ其變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ(同上)

第五十七條ノ五 前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ

豫備欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ(同上)
第五十七條ノ六 共同擔保目錄用紙中豫備欄カ
登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其目錄ニ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ捺印
ヲ爲スヘシ(同上)

第五十七條ノ七 不動産登記法第六十三條ノ二

第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ

於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱、許可ノ年月日及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ(同上)

第五十八條 登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又

ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記

ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ
第六十條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル
ニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前項
ノ登記濟證ニ不動産登記法第六十條第一項
ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條 不動産登記法第四十九條ノ五ノ

規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事
事由及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ(改正
二年省令第十五號)

第六十二條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ

跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ
爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記
所ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考

欄ニ其通知事項ヲ記載スヘシ

第六十三條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十三條ノ二 不動産登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スヘシ(追加二年省令第十五號)

前項ノ規定ハ不動産登記法第二十八條ノ三及ヒ第百三條ノ二ノ規定ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第六十四條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動産ノ表示表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十五條 不動産登記法第四十七條第二項ノ

二百二

規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ゲタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條 不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記簿書ヲ交付スルトキ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十七條 不動産登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所
- 二 申請人カ登記官吏ナルヲ又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等内ノ親族ナルヲ
- 三 登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的
- 四 申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號
- 五 立會人ノ氏名、住所及ヒ年齢
- 六 立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

第六十八條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、區、町、村、字土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ

年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租納期開始前十五日内ハ其郡度通知ヲ爲スヘシ(但書改正三十七年省令第十八號)

第六十九條 登記官吏カ不動産登記法第二百

九條、第百三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但第三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ二 不動産登記法第四十九條ノ

二第一項ノ通知ハ同法第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スヘシ(追加二年省令第十五號)

第六十九條ノ三 不動産登記法第四十九條ノ

二第一項ノ通知ニハ登記ヲ完了シタル事件ノ表示及ヒ事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサルコト若クハ登記スヘキモノニ非サルコトヲ記載スヘシ(同上)

第七十條 不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、第百三條ノ二、第百二十七條ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三條第二項及ヒ本令第六十九條、第六十九條ノ二ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ(同上)

第七十一條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫若クハ字又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫若クハ字又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

二百三

シ(改正二年省第十五號)

第七十一條ノ二 第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ永代借地登記簿ノ用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記カ未タ抹消ニ係ラサルトキハ登記官更ハ普通登記簿ニ所有權ノ登記ヲ爲シタル上他ノ權利ニ關スル登記ヲ移スヘシ(追加三十四年省令第十七號)

第七十一條ノ三 前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキ又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載ノ登記官吏捺印スヘシ

二百四

附則

第七十二條 不動産登記法第六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條 不動産登記法第六十三條ノ登記ヲ爲ササル不動産ニ付キ其滅失又ハ其不動産ニ關スル權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ(改正三十二年省令第五十四號)

第七十四條 受附番號ハ明治三十二年分ニ限リ六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條 舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以

テ之ヲ作成スヘシ

第七十六條 明治二十六年三月司法省令第三號ニ依リ既ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

附則 (大正二年司法省令第十五號)

第一條 本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 従前ノ規定ニ依ル登記簿ノ謄本ハ従前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三條 従前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スル場合ニ於テハ數地ノ地目及ヒ段別若クハ坪數ハ之ヲ移シ又ハ轉寫スルコトヲ要セス舊登記簿ヨリ従前ノ規定ニ依ル登記簿又ハ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルコトキ亦同シ

第四條 前條ノ規定ハ舊建物登記簿及ヒ従前ノ規定ニ依ル建物登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本令施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ改正登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條 本令施行前ニ調製シタル土地登記見出帳及ヒ土地分合登記見出帳ハ當分ノ内其儘之ヲ使用スルコトヲ得

第七條 土地臺帳謄本及ヒ土地異動通知書發送帳ヘ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢毀スルコトヲ得

附則 (大正五年十二月省令第二十四號ニ對スル)

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前調製シタル帳簿及ヒ用紙ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スヘシ
見出帳ハ之ヲ改製スルマテハ仍ホ従前ノ雜形ニ依ルヘシ

二百五

乙		(權有所) 區
番號	順位	
事項欄		
番號	順位	
事項欄		
番號	順位	
事項欄		

甲		(以權有所) 區 (利權ノ外)
番號	順位	
事項欄		
番號	順位	
事項欄		
番號	順位	
事項欄		

二百七

紙數表紙ヲ除キ
地方裁判所長
枚

附錄第一號
土地(建物)登記簿
區裁判所

甲		部 題 表 (示表産動不)	
番號	順位	番號	表示
事項欄		表示欄	
番號	順位	番號	表示
事項欄		表示欄	
番號	順位	番號	表示
事項欄		表示欄	

二百六

附錄第四號

土地分合登記見出帳

區裁判所

部 /			部 /		
	號符 本 番	土地 / 番號		號符 本 番	土地 / 番號
	號符 建物	冊數 / 數		號符 建物	冊數 / 數
	所有 者	登記 冊數		所有 者	登記 冊數
	丁 冊	冊數 / 冊		丁 冊	冊數 / 冊
	舊 冊	冊數 / 冊		舊 冊	冊數 / 冊
	備 考			備 考	

附錄第五號

建物登記見出帳

區裁判所

部 /			部 /		
	號符 本 番	土地 / 番號		號符 本 番	土地 / 番號
	號符 建物	冊數 / 數		號符 建物	冊數 / 數
	所有 者	登記 冊數		所有 者	登記 冊數
	丁 冊	冊數 / 冊		丁 冊	冊數 / 冊
	舊 冊	冊數 / 冊		舊 冊	冊數 / 冊
	備 考			備 考	

附錄第六號

不動産登記受附帳

區裁判所

受附ノ
年月日
受附登記ノ
番號
的ノ
申請人
氏名

備

考

二百十二

附錄第七號

不動産評價事件簿

區裁判所

評價請求者ノ 氏名、住所及 之請求ノ年月日	登記ノ原因及 目的	申請書受附ノ 年月日及之受 附番號	登録稅額	差稅額	確定稅額

評價費用 額	評價人ノ氏名 及之評定番號	出ノ年月日	評定價格及之 課稅標準價格 告知ノ年月日	課稅標準價格 告知ノ年月日	送付額請求書 送付ノ年月日	豫備

不動産ノ表示

市營
價格
認定
價格
評定
價格
二
法第九
三條
三
條
規定
價格

二百十三

第四號及第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサル
トキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁
判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁
判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ
強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合
ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件
ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附ス
ルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時
ニ債權者ノ爲メ不動產ヲ差押フルコトヲ宣言
ス可シ差押ハ債權者カ不動產ノ利用及ヒ管理
ヲ爲スコトヲ妨ケス
差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效
力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定
ヲ爲シタル不動產ニ付キ強制競賣ノ申立アル
モノ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求
ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消
ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規
定ヲ害セサル限りハ開始決定ヲ受ケタル效力
ヲ生ス

配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動產上權利者

第四 不動產上權利者トシテ其債權ヲ證明シ
執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先ツ債
權ニ關スル不動產ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシ
ムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スル
ニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコ
トヲ得ス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當
權ハ賣却ニ因リテ消滅ス(明治三十一年六月
法律第十一號第五十一條ヲ以テ第二項及第三
項ヲ改メテ本項以下ノ三項トス)

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競
落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟ス
ル責ニ任ス
質權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落
人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及質權者ニ對
シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ
任ス

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ
規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且
裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサ
ル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲
ス可シ
右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコ
トヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及
ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可
シ
執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル
債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨ
リ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤチ
裁判所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知ア
リタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三
日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ
確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲グル者ヲ競賣手續ニ於
テノ利害關係人ト爲ス
第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ

際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタ
ルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコト
ヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動產カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務
ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場
合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ
申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣
手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス
第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定
ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコト
ヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス
可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可
シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記
入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付
シ不動產上權利者ヨリ差出シタル證書アルト
キハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始
ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハ
ルトトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續

ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間
内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコ
トヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲
ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ
取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲
シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳
ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限
度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可
シ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其
他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル
後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評
價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ
差押債權者ノ債權ニ先ダツ不動産上ノ總テノ
負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込
ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス
可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項
ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額
ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於

テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ
十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取
消ス可シ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及
ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ
差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル
保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及
ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件
ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 租稅其他ノ公課

第三 貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借
賃

第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲ス可
キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競賣價額

第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利
ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨
第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少
クトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其
他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム
第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ
過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ
揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇
ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ
掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意
アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日
ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏
ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却
條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ
催告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ
保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルトキハ其競
買人カ保證トシテ競買價格十分ノ一二當ル金
額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ
預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス
右申立ハ競買價格ノ申出アリタル後直チニ之
ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人
ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ
第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ
更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價
額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間
ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス
第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名
及ヒ其價格ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知
ス可シ
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務
ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其
返還ヲ求ムル權利アリ
第六百六十七條 競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ
左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示
 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト
 又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
 第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
 第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト
 第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
 第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト
 第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト
 最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ
 競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添付ス可シ
 第九百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ

渡ス可シ
 第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス
 住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第四百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ
 新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ
 第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ
 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ
 第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左

ノ理由ニ基クコトヲ要ス
 第一 強制執行ノ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
 第三 法律上ノ賣却條件ニ抵触シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
 第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
 第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
 第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト
 第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
 第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト
 第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス
 第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當ト

スルトキハ競落ヲ許サス
 第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ゲタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル
 第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得
 第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競落ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ
 新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條 前條ノ規定ハ從ヒテ新競賣期

日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル
決定ノ言渡ヲ爲スコシ

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ

天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シ
タルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル
者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキ
ヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲

シタル不動産競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買
價額ヲ揭ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲
シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ
右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ
揭示シテ公告スコシ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テ

ノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ
其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
競落ヲ許スコキ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケ
タル以外ノ條件ヲ以テ許可スヘキコトヲ主張
スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許スコキコト

ヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ
得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ
其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノト
ス

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル

抗告ハ此法律ニ掲グル總テノ不許ノ原因ナキ
コトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ
得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ
掲グル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ
理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調
書ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキ
ニ限り之ヲ爲スコトヲ得
取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由ト
スル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケララルコ
ト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ

於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相
手方ヲ定ム可シ
一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合

ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ

抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又

ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所
之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告スコシ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタ

ルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ
其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ

競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百
五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因

リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒ

タル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコト
ヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル

後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セ
シメントコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ
命スコシ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ

債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債
務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サ
シム可シ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其表

務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ
以テ不動産ノ再競賣ヲ命スコシ

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テ

ハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強
制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス
但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス
可シ

第六百九十條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テ

ハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強
制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス
但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス
可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百九十二條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ

設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競賣人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

二百二十四

不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人ノ負擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競落ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示
第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札

二百二十五

ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以下同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百四十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及第七百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産債權者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足

ル

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ

且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者債務者及ヒ管理人ニ通知スヘシ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ

許スコトヲ妨グル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ此殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊

シタル後之ヲ裁判ス可シ
若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完
結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セ
シム可シ

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定
ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ
受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ
ハ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テ
ハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強
制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執
行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ
之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハル
ルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケ
タルトキハ此限ニ在ラス端舟其他艦權ノミチ
以テ運轉シ又ハ主トシテ艦權ヲ以テ運轉スル
舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ

差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄
執行裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之
ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ
適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害
關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テハ申立ニハ左ノ
證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所
有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル
場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコ
トヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於
テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ
包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在
ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラントコトヲ執行
裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ
船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲
サシム可シ
此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト

雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル
金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消ス
コトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基
キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ

其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ
於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ
續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係
人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル
責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管
轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續
ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五
十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ
表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於
テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期
日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判

所ノ揭示場ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行
ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス其執
行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債
務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコト
ヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ
證明證ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送
達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ
債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ
付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ
又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルト
キハ登記簿ニ記入スヘキ手續ニ關スル規定ヲ
適用セス

●假差押假處分(民事訴訟)

(明治二十三年三月法律第二十九號)

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條

假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條

假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條

假差押ノ命令ハ假差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條

假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト

第七百四十一條

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ

口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖

モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ

債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル

保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト

雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト

及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ

假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ

口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ

之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ

爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル

裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執

行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル

假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供

託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條

債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立

ツル理由ヲ開示ス可シ

第七百四十五條

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ

一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル

意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條

件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

第七百四十六條

本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論

ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可

キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ

第七百四十七條

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ

其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由

ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提

供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假

差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其

裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又ハ本案カ既ニ

繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執

行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差

異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 假差押ノ命令ハ其命令ヲ發シ

タル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合

ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人

ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過

スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖

モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各

差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判

所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務

者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス

可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物

ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ
假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキ

モ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ洽スルコトヲ得
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以

テ之ヲ爲スコトヲ得
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保護ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

●競賣法(三十一年一月十五日法律第十五號)

第一章 通則

第一條 競買ノ申立ハ他ノ高價競買ノ申立アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス
競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス
競買人ハ留置權者、競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣
第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、

質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競賣人ト爲ルコトヲ得ス
債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ス但其他ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス
第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス
競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ゲタル後之ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ
一 競賣委任者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
四 競賣ノ場所及日時
五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタル

二百三十四
公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣委任者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
四 競賣ノ場所及ヒ年月日時
五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所
委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス
第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス
第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス
第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス
取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以

コト若シ之ヲ發セサリシトキハ其事由
七 告知シタル競賣ノ條件
八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由
十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時
十一 競賣調書ヲ作りタル場所及ヒ年月日

競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證スル書面及ヒ委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス
執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セサリシ物ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣證書ニ添付スヘシ

二百三十五

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣停止スルコトヲ要ス
物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ運滞ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ

於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス
第二十一條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得
前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章 不動産ノ競賣
第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス
第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申立人ノ同意アル場合ニ限り其中立ノ取トヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
二 競賣ニ付キヘキ不動産ノ表示

三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス
第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第一項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ
民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ
民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場

合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス
競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス
一 申立人
二 債務者及ヒ所有者
三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號

第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條 競賣期日、其開始、競賣調書及競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十一條 競賣期日ニ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ

第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第五節 增價競賣
第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ヲ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ
一 債務者ノ氏名、住所
二 抵當不動産ノ表示
三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
四 擔保ノ表示
五 第三取得者カ提供シタル金額
六 請求者カ定メタル增價金額
七 年月日
八 裁判所

申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケ

二百三十八
裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第四章 船舶ノ競賣
第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

タル日ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス
第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ
擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ
民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ
決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第二項、第三項

一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ增價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一 競賣請求者

二 債務者

三 第三取得者及ヒ讓渡人

四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條 競賣ノ公告ニハ增價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル增價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル增價金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ請求

債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ明治三十一年七月十六日ヨリ施行)

第五十一條 明治二十九年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●公證ヲ經タル證書
面ノ權利ニ關スル
登記取扱手續

第一條 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第四百八十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法其他不動産ノ登記ニ關スル規程ニ依ル

第二條 前條ノ登記ヲ申請スル者ハ其申請書ニ公證ノ年月日公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載シ公證ヲ經タル證書ヲ添附スヘシ

第三條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在ノ郡、市、區、町、村、字、土地ノ番號地目段別又ハ坪數カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ申請書ニ不動産ノ新舊ノ登示ヲ爲シ且地目、段別又ハ坪數ニ付テハ其異ナル事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第四條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テ其種類、構造、建坪又ハ番號カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ申請書ニ建物ノ新舊ノ表示ヲ爲シ且其異ナル事由ヲ疏明スヘシ

第五條 申請人カ公證ヲ經タル證書面ノ債權者ト異ナルトキハ申請書ニ其異ナル事由ヲ證ス

ルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第六條 多數債權者中ノ一人又ハ數人カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ共ニ登記ヲ申請スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明シテ他ノ債權者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第七條 公證ヲ經タル證書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所有者ノ承諾書ヲ添附シ又ハ所有者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシムヘシ但其所有者カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ其異ナル事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ申請書ノ副本ヲ提出スヘシ

第八條 登記官吏ハ左ノ場合ニ於テモ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スヘシ但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一 本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル不動産ノ表示又ハ債權者若クハ不動産ノ所有者ノ表示カ公證簿ト符合セサルトキ

二 申請書ニ掲ケタル債権者ノ權利ニ關スル事項カ公證簿ト符合セサルトキ

三 申請カ不動産登記法施行後一年内ニ爲シタルモノニ非サルトキ

第九條 登記ヲ爲ストキハ土地ニ付テハ丁區事項欄ニ建物ニ付テハ丙區事項欄ニ公證ノ年月日公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載スヘシ

第十條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ公證ヲ經タル質入又ハ書入ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ニ從ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ公證ヲ經タル質入又ハ書入ノ登記ノ申請ニ因リ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ公證ヲ經タル事項ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨新登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印

スヘシ

第十一條 未登記ノ不動産ニ付キ公證ヲ經タル質入又ハ書入ノ登記ノ申請アリタルトキハ甲區事項欄ニ所有者ノ氏名住所及ヒ公證ヲ經タル質入又ハ書入ノ登記ノ申請ニ因リ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第十二條 登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ公證簿中登記シタル權利ノ公證ヲ朱抹シ其事由及ヒ年月日ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ公證ヲ經タル證書又ハ申請書ノ副本ニ登記番號申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ債権者ニ還付スヘシ但申請書ノ副本ニ登記簿ノ旨ヲ記載スル場合ニ於テハ公證ノ年月日、公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載スヘシ

第十四條 登記官吏カ前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ遲滞ナク其不動産ノ表示、登記原因、其日附、債権者ノ氏名住所、登記ノ目的、公證ヲ經タル權利ナルコト及ヒ登記簿ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ

シ但其不動産カ共有ナル場合ニ於テハ共有者ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル

前項ノ通知事項ハ不動産登記法施行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第十五條 不動産登記法第六十二條第一項ニ定メタル期間内ニ公證取消ノ申請アリタルトキハ公證簿ノ公證ヲ朱抹シ其事由及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

●軍人軍屬ノ遺言確
認ニ關スル件

(三十三年二月六日法律第十三號)

第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衛團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若シ其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ

住所又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ

二 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衛團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若シ遺言ヲ爲シタル者カ艦船乗込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條 民法第八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ錄事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限ニ在ラス

●政府ト私人トノ債
務相殺ニ關スル件

二百四十三

(三十四年六月二十日勅令第三百三十一號)

民法ノ規定ニ從ヒ政府ト私人トノ債務ヲ相殺スルトキハ其ノ相殺シタル金額ハ金庫又ハ現金前渡官吏ニ於テ之ヲ差引クヘシ
前項ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ歳入徵收官ノ計算ニ移シ直ニ當該官吏ニ報告シ現金前渡官吏ニ於テ差引シタル金員ハ相殺額表ヲ添ヘ取入官吏ニ送附スヘシ

●相續人曠缺ノ場合

ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財產ノ引渡ニ關スル件

(三十三年十二月七日勅令第四百九號)

相續人曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財產ハ管理人ヨリ遲滞ナク被相續人ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

●非訟事件手續法
本及證明手数料ノ

二百四十四

件

第一條 非訟事件手續法第二百五條ノ規定ニ依リ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條 非訟事件手續法第二百五條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手数料金拾錢ヲ納ムヘシ

第三條 明治三十二年司法省令第十五號第十條ノ規定ニ依リ法人又ハ夫婦財產契約ノ登記ニ付キ登記簿證ノ交付ヲ請求スル者ハ手数料金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 非訟事件手續法第四十二條第一項又ハ第五十七條第一項ノ規定ニ依リ書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其謄本一枚ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ但シ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚ニ計算シ十行以下ハ半枚ニ計算ス

(明治三十三年法律第七十九號)

不動産登記法施行前ニ殖林ノ爲設定シタル地上權ノ登記ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ限り地上權者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ヲ爲スニハ其ノ權利ヲ有スルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

●建物保護ニ關スル法律

(四十二年四月法律第四十號)

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
建物カ地上權又ハ土地ノ賃借ノ期間滿了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條 民法第五百六十六條第一項第三項及第五百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス買主カ契約ノ當時知ラザリシ地上權

二百四十五

之ヲ納ムヘシ

第六條 前五條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第七條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治三十一年司法省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●地上權ニ關スル法律

(明治三十三年三月法律第七十二號)

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス

第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

●殖林ノ爲メニ設定シタル地上權ノ件

又ハ賃借權ノ効力ノ存スル場合亦同シ

●外國人ノ抵當權ニ

關スル件

(明治三十二年三月法律第六十七號)

土地ノ抵當權者ナル外國人カ土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サル場合ニ於テ該外國人カ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額二十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落價額トノ差額ヲ負擔スヘキ旨ヲ附言スルコトヲ要ス(改正四十二年四月法律第五十一號)

●外國人ノ土地所有

權ニ關スル法律

(四十二年四月十二日法律第五十一號)

第一條 日本ニ住所若ハ居所ヲ有スル外國人又ハ日本ニ於テ登記ヲ受ケタル外國法人ハ其ノ本國ニ於テ帝國ノ臣民又ハ法人カ土地ノ所有權ヲ享有スル場合ニ限り土地ノ所有權ヲ享有

二百四十六

ス但シ外國法人カ土地ノ所有權ヲ取得セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ勅令ヲ以テ指定シタル國ニ屬スル外國人及外國法人ニノミ之ヲ適用ス

第二條 外國人又ハ外國法人ハ左ノ地域ニ於テ土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得ス

一 北海道

二 臺灣

三 樺太

四 國防上必要ナル地域

前項第四號ノ地域ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 土地ヲ所有スル外國人又ハ外國法人カ土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ讓渡ササルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス

外國人カ日本ニ住所若ハ居所ヲ有セス又ハ外國法人カ日本ニ營業所若ハ事務所ヲ有セサル爲土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ前項ノ期間ハ之ヲ五年トス
外國人又ハ外國法人ノ所有スル土地カ前條第

二項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル地域ニ指定セラレタル爲所有權國庫ニ歸屬スル場合ニ於テハ其ノ損失ヲ補償ス
前項ノ補償金額ニ付協議調ハサルトキハ通常裁判所 出訴スルコトヲ得

附則

第四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 明治六年第十八號布告ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際臺灣ニ於テ外國人又ハ外國法人カ現ニ所有スル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ其ノ土地ノ所有權カ帝國ノ臣民又ハ法人ニ歸屬シタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 明治三十二年法律第六十七號中一土地ノ抵當權者ナル外國人カ一ノ下ニ一土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サル場合ニ於テ該外國人カ一ヲ加フ

第八條 民法第九百九十條及明治三十二年法律第九十四號中一日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合一「國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合」ニ改メ「日本人ニ」ヲ削

●外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件

(明治三十二年三月法律第五十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條 民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其證明書ニハ日本ニ駐在スル其外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前

二百四十七

項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明力不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治三十二年七月十七日ヨリ施行)

●外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

(三十一年七月九日法律第二十一號)

- 第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
- 第二條 内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ス
 - 一 引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スルコト
 - 二 品行端正ナルコト

●國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

(三十二年三月二十八日法律第九十四號)
日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス(改正四十三年法律第五十一號)

●社寺學校病院等ノ寄附物處分

●社寺學校病院等ノ寄附物處分

(明治九年四月第五十四號布告)

社寺學校病院等ノ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノナシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

●社寺ノ負債ハ氏子檀家ノ連署ヲ要ス

(明治十年五月第四十三號布告)

物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號達書之通心得ヘシ

●神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要ス

ルトキ願書差出方

(明治二十二年五月内務省訓令第二十二號)

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニ付キ當省ニ出願處分ヲ要スルモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其ノ手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

●救育所ニ在ル孤兒

後見職務ニ關スル法律

(三十三年三月十二日法律第五十一號)

第一條 公設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ所長後見人ノ職務ヲ行フ

神社院ニ於テ其ノ社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除却地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此ノ連署ヲキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキモノト爲スヘシ此旨布告候事

●社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方

(明治十二年七月内務省達乙第三十九號)

本年當省乙第三十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目録帳中(記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應官廳ヘ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限り認可スヘシ此旨相達候事但目録帳ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建

私設ノ教育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ教育所所在地ノ地方長官ニ於テ後見人ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ指定ス

第二條 前條ニ依ル後見人ノ職務執行ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 教育所ニ在ル未成年者ニシテ孤兒ニ非サル者ト雖本法ノ規定ヲ準用スヘキモノハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件

(三十三年四月十二日勅令第四百四十四號)

第一條 教育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フ者カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同意ヲ要スル事項ハ公設ノ教育所ニ在リテハ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ教育所ニ在テハ其ノ教育所所在地ノ市町村長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

二百五十

第二條 後見人ノ職務執行ニ關シ後見監督人及親族會ニ屬スル職務權限ハ公設ノ教育所ニ在ル孤兒ノ後見ニ付テハ其ノ教育所ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ教育所ニ在ル孤兒ニ付テハ其ノ教育所所在地ノ市町村長ニ屬ス

第三條 主務大臣又ハ地方長官ハ孤兒ノ後見職務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第四條 孤兒ニ非スシテ教育所ニ在ル未成年者ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フヘキ場合ニ於テ其ノ者ノ父母ノ所在分明ナルトキハ身分ニ關スル事件ニ限り其ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條 本令ニ規定スル市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

◎教育所ニ在ル孤兒ニ非サル棄兒迷兒等ノ後見職務ニ關スル件

(三十三年三月二十七日內務省令第十一號)
棄兒、迷兒、遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ニシテ教育所ニ在ルモノノ後見ニ關シテハ孤兒ニ非サル者ト雖モ明治三十三年法律第五十一號ノ規定ヲ準用ス

◎各省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件

(三十五年一月十七日勅令第五號)

各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

◎遞信省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託官吏(明治四十三年四月)

(遞信省令第五十號)

明治三十五年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關シ左ノ官吏ヲ指定ス

- 遞信大臣官房經理課長
- 爲替貯金局長
- 電信燈臺用品製造所長
- 航路標識管理所長
- 商船學校長
- 遞信局長

◎大藏省同上

(明治三十五年五月大藏省令第十號)

- 當省ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス
- 警視總監
- 北海道廳長官
- 府縣知事
- 大臣官房會計課長
- 造幣局長
- 稅關長
- 稅務監督局長
- 稅務署長
- 馬政長官
- 種馬牧場長
- 種馬育成所長

二百五十一

種馬所長
鐵道院總裁
鐵道管理局長
鐵道院出張所長
鐵道院建設事務所長
鐵道院東京改良事務所長
鐵道院建設部長
專賣局長官
專賣局製造所長
印刷局長
鐵道管理局保線事務所長
鐵道院建設部派出所長

◎海軍省同上

(大正二年六月海軍省第九號)
當省所管ニ屬スル不動産ノ登記ノ囑託ニ付テハ
其ノ不動産ヲ管理スル海軍省經理局長、海軍經
理部長、海軍探炭所長、臨時海軍建築部支部長
ヲ指定ス
明治三十五年一月二十三日海軍省令第三號ハ之
ヲ廢止ス

◎農商務省同上

二百五十二

(大正元年九月農商務省令第六號)
當省所管ニ係ル不動産登記囑託ニ關シ本官ノ代
理トシテ左ノ通指定ス
農商務大臣 男爵 牧野 伸顯
一 大臣官房會計課長、製鐵所長官、農事試驗場
長、蠶業試驗場長、生糸検査所長、種畜牧
場長、種牛所長、植物検査所長、工業試驗
所長、花蔴検査所長、大林區署長、鑛務局
長、水産講習所長
一 明治四十年農商務省令第十四號ハ廢止ス
一本令ハ大正元年十月一日ヨリ施行ス

◎文部省同上

(明治四十年十一月文部省令第三十二號)
當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左
ノ官吏ヲ指定ス
北海道廳長官
府縣知事
文部大臣官房會計課長
帝國大學總長
東北帝國大學農科大學長
文部省直轄諸學校長

◎內務省同上

(明治三十五年四月內務省令第十三號)
當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左
ノ官吏ヲ指定ス

北海道廳長官
樺太廳長官
府縣知事
神宮大宮司
本省總務局會計課長
本省衛生局長
警察監獄學校幹事
內務省土木出張所長
衛生試驗所長
血精藥院長
痘苗製造所長
傳染病研究所長
北海道廳支廳長
樺太廳支廳長
島司
郡長

◎陸軍省同上

(明治三十五年二月陸軍省令第四號)
本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ

登記囑託ニ關シ左ノ通り指定ス

陸軍東京經理部長(追加大正五年四月)
師團經理部長
朝鮮駐劄軍經理部長
臺灣陸軍經理部長
砲兵工廠提理
築城部本部長並同支部長
要塞司令部及對馬警備隊司令部
工兵科將校
千住製絨所長
陸軍測量部長
馬政長官
種馬牧場長
種馬育成所長
種馬所長

◎司法省同上

(明治三十六年五月司法省令第十八號)
當省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ
官吏ヲ指定ス
司法大臣官房會計課長
控訴院長(東京控訴院長ヲ除ク)

二百五十三

地方裁判所長(東京、大阪、名古屋、函館地方
裁判所長ヲ除ク)
典獄

●年令計算ニ關スル 件(明治三十五年十二月一日) 法律第五十號

年令ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス
民法第四百三條ノ規定ハ年令ノ計算ニ之ヲ準
用ス
明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

●利息制限法 (十年九月十一日布告第六十六號)

- 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ
利息ト法律上ノ利息トス
- 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以
テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ
一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以
下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二
(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル
分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引
直サシムヘシ
- 第三條 削除(三十一年法律第十一號民法施行

法第五十二條

- 第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相
互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者ア
ルトモ總テ裁判上無効ノ者トス
- 第五條 返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債
主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料等ヲ差出
スヘキコトヲ約定スルコトアルトモ概シテ損
害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實
受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルト
キハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得(商法
施行法第十七條參看)

●鐵道法抵當

(明治三十八年三月法律第五十三號)

- 第一章 總則
- 第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株
式會社ヲ謂フ
- 第二條 會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全
部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得
鐵道財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ鐵道財團
ニ屬スルコトヲ得ス
鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス

鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條 鐵道財團ハ左ニ掲グルモノニシテ鐵道

- 財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス
 - 一 鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ
存スル工作物並之ニ屬スル器具機械
 - 二 工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、
事務所、舍宅及其ノ敷地並之ニ屬スル器具
機械
 - 三 鐵道用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並之
ニ屬スル器具機械
 - 四 鐵道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作
物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
 - 五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使
用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權
登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地
ノ爲ニ存スル地役權
 - 六 車輛及之ニ屬スル器具機械
 - 七 保線ニ要スル材料及器具機械
- 第四條 鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權
又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコ
トヲ得ス
鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又

ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコト
ヲ得ス

- 鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ
物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タル
トキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動產ニシテ賃
借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設ク
ルコトヲ得ス但シ不動產ニ關スル權利ニ付其
ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ
一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法
ノ決議ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ
其ノ效力ヲ生ス
- 第六條 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債
ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得
ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債
務ノ額ハ之ヲ算入セス
- 第七條 抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當
證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附
社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以
テ抵當證書ニ代フ
抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

主務官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月内ニ抵當權設定認可ノ申請ヲキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條 前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ

二百五十六

又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條 第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條ニ掲ゲタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ前項ニ掲ゲタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セザルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有

權ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノ、讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ主務官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

二百五十七

第十二條 第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定カ認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條 抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月内ニ其ノ登録ノ申請ヲキトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當

スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間内ニ申出ヲ爲ササル權利者並期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ
第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス
本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル
場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十一條 會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法
ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ
變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリ
ト認ムルトキハ主務官廳ハ會社ヲシテ抵當
權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告
セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テ
ハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得
前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵
當權者ハ免許ノ失効又ハ取消ノ日ヨリ六箇月
内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル
迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ
數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ
於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ
各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ

分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵
當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受
クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在
ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者
カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿
ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得
第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵
當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位
ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ
辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財
產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財
產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セズ
但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定
ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ
金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタ
ル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置
年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟ス
ルコトヲ得但シ少ナクトモ一箇年前ニ豫告ス

第二章 登錄

第二十七條 鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲主
務官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ
設ク

第二十八條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ
除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條 抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ
書面ヲ添附スヘシ

一 抵當權ノ設定ニ關スル證書

二 鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタ
ル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引
用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當
權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ
要セス

第三十條 抵當權設定ノ登錄ハ鐵道抵當原簿ニ

左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

一 第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタ
ル事項

ヘシ

二 免許ニ附シタル條件

三 抵當權ヲ設定シタルコト

四 抵當權設定認可ノ年月日

五 登錄ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル
事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ
登錄スルコトヲ要セス

第三十一條 登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ
其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク
變更又ハ消滅ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載
シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

變更又ハ消滅カ主務官廳ノ命令又ハ認可ニ因
リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之
ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵
道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ
ハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表
示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘ
シ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登錄カ
前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタ
ル事項

ルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登錄ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第三十五條 一用紙ノ抵當權ノ登錄カ全部抹消セラレタルトキハ主務官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキ
二 不動産ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ
前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條 登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受ケル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノカ主務官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 何人ト雖鐵道原簿及鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求シ又ハ手數料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣ノ之ヲ定ム

第三章 強制競賣及強制管理

第四十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正木ハ主務官廳ノ官吏ノ之ヲ付與ス

第四十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人ノ署名捺印スヘシ

一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日

五 裁判所
申立書ニハ執行力アル正木ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下クルコトヲ得

第四十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事ノ署名捺印スヘシ

第四十六條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ主務官廳ニ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵

道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條 裁判所ハ主務官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時

三 最低競賣價額

四 競落期日ノ場所及日時

五 競行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第五十條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スルニハ競賣ニ付セラレタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ヲ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス

前項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第五十一條 前條第一項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價

額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限り之ヲ適用セス

第五十二條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條 競賣ニ加入スルコトヲ得サル者ノ爲シタル入札ハ無効トス

第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽

キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若シテ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト並第

五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時並最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限り債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許可ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ゲタル理由アル場合ニ限り競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ナ有ス

第六十三條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條 競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第六十五條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ本免許ヲ受ケルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條 競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ競落人カ第五十條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナキトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス
抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條 本免許狀ノ下付ナキトキ、第七十三條ノ期間內ニ本免許ノ申請ナキトキ又ハ第

二百六十四

六十五條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ本免許ハ取消サレタルモノトス
競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ

第六十八條 裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ
主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スルコト
二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起

セラレタル會社カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記並第十條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ
主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄ヲ抹消スヘシ

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條第四十九條第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條 競落人カ第五十條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ發起人トナリテ會社ヲ設立スヘシ

第七十三條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ本免許ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ本免許ヲ申請スルニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スヘシ

- 一 定款
- 二 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定ノ謄本
- 三 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄本、發起人、取締役、監査役、又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第七十五條 競落人タル會社カ本免許ヲ申請スルニハ定款ノ變更ト同一方法ノ決議ニ依ルヘシ本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條 主務官廳ハ前三條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

第七十七條 本免許ハ會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

本免許カ效力ヲ生シタルトキハ會社ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第八十條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得
第八十一條 主務官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬

ノ額ヲ定ムヘシ

主務官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

主務官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條 主務官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

權者ノ名稱及配當額ヲ主務官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰則

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ拾圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ

四 登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人ノ之ヲ負フ

第八十七條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ主務官廳ニ差出スヘシ

主務官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ主務官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當

ハ第三十一條ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキ
五 鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルト
キ、第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ
不正ノ届出ヲ爲シタルトキ
六 管理方法ニ付主務官廳ノ命令ニ違反シタ
ルトキ
七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルト
キ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ
八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十
七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シ
テ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ
第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第
二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ
準用ス

皇室財産令抄録

(四十二年十二月二十三日皇室令第三十三號)

二百六十八
第一章 御料
第一節 總則
第一條 御料ハ舟傳御料及普通御料トス
第二條 御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付テハ宮
内大臣ヲ以テ其ノ當事者ト看做ス但シ宮内大
臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得
第三條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令
ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定
ナキトキニ限り御料ニ關シ之ヲ準用ス
第十六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ物權ヲ
設定シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス其ノ公
告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
第十七條 前條ニ規定シタルモノヲ除クノ外世
傳御料ニ編入シタル不動産ニ關スル權利ハ登
記ヲ爲サスシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得
登記シタル不動産ヲ世傳御料ニ編入シタル場
合ニ於テハ宮内大臣ハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹
消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

華族世襲財産法

(大正五年九月二十日法律第四十五號)

第一條 有爵者ハ其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナ
ル範圍内ニ於テ世襲財産ヲ設定スルコトヲ得
第二條 世襲財産ノ設定ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲ス
コトヲ得
第三條 世襲財産ハ家寶、不動産、登録債權又
ハ記名ノ有價證券ニ限ル
第四條 世襲財産ヲ設定セムトスルトキハ其ノ
財産ノ目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘ
シ
第五條 有爵者カ未成年者又ハ禁治産者ナルト
キハ其ノ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ
其ノ保佐人ハ豫メ家政協議員會ノ決議ヲ經テ
世襲財産設定ノ認可ヲ申請スルコトヲ得
有爵者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ム
ルニ堪ヘス又ハ之ヲ傾グルノ虞アルトキハ家
政協議員會ハ本人ニ代リテ前項ノ認可ヲ申請
スルコトヲ得
△ 家政協議員會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定
メ
第六條 世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタルト
キハ宮内大臣ハ其ノ當否ヲ調査スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要トアリト認ムルキハ宮
内大臣ハ本人ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ
得
第七條 宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請
ヲ相當ナリト認ムルトキハ其ノ申請アリタル
旨ヲ一週間公告スヘシ
前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地及面
積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其
ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他
必要ナル事項ヲ掲グヘシ
第八條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關
シ權利ヲ有スル者及債權者ハ前條第一項ノ公
告期間内又ハ其ノ期間満了後二月内ニ之ヲ宮
内大臣ニ申出ツヘシ
世襲財産設定ノ認可ハ前項ニ定メタル期間満
了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第九條 宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請
ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラサル理由アリ
ト認ムルトキハ華族世襲財産審議會ニ諮詢ス
ヘシ

華族世襲財産審議會ニ關スル規程ハ宮内大臣
之ヲ定ム

第十條 宮内大臣ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタ
ルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ掲クル事項
ヲ公告スヘシ

第十一條 前十條ノ規定ハ世襲財産ヲ増加スル
場合ニ亦之ヲ適用ス

第十二條 宮内大臣ハ華族世襲財産臺帳ヲ設ケ
世襲財産ニ關スル事項ヲ登錄スヘシ

第十三條 世襲財産タル登録國債ニ付テハ國債
登錄簿ニ世襲財産タル旨ヲ登錄シ有價證券ニ
付テハ宮内大臣ハ之ニ世襲財産タル旨ヲ記入
スヘシ

株券及社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外
株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財産タル旨ヲ記
入スヘシ

登錄國債又ハ有價證券ノ世襲財産タル效力ハ
前二項ノ手續ヲ踐ミタル後ニ非サレハ之ヲ以
テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對抗スル
コトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因

ニ基キ世襲財産ニ付所有權、質權又ハ抵當權
ヲ有スル者ハ確定判決又ハ確定日附アル證書
ニ依リテノミ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リテ權利ヲ主張セムトスル者
ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第十五條 世襲財産ハ家督相續ノ特權ニ屬ス
第十六條 世襲財産及其ノ法定果實ヲ收取スル
權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的
ト爲スコトヲ得ス株券カ世襲財産タル場合ニ
於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦
同シ

第十七條 土地カ世襲財産タル場合ニ於テ地上
權又ハ永小作權ノ設定又ハ變更ハ宮内大臣ノ
認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十八條 世襲財産及第十六條ニ掲クル權利ハ
世襲財産ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法
行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基ク場合ヲ除
クノ外民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差
押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之ヲ競賣スル
コトヲ得ス

世襲財産ノ果實及第十六條ノ利益又ハ利息カ
他ノ財産ト混合セサル間其ノ三分ノ二ニ付亦
同シ

第十九條 世襲財産ハ重大ナル事由アルトキニ
限リ其ノ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財産ハ他ノ世襲財産ニ換フル爲其ノ全部
又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ハ前二
項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 宮内大臣ハ世襲財産ノ廢止ヲ認可ス
ヘキヤ否ヤニ付華族世襲財産審議會ニ諮詢ス
ヘシ

第二十一條 第十九條第二項ノ規定ニ依リ世襲
財産ヲ廢止シタル場合ニ於テハ廢止ノ認可ヲ
受ケタル者又ハ其ノ家督相續人ハ認可アリタ
ル日ヨリ六月内ニ世襲財産設定ノ認可ヲ申請
スヘシ

前項ノ期間内ニ申請ヲ爲ササルトキハ宮内大
臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨

二百七十

前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル
假差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一般ノ先取特權
ニ基キ著手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ク
ス

第二十條 世襲財産ハ重大ナル事由アルトキニ
限リ其ノ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財産ハ他ノ世襲財産ニ換フル爲其ノ全部
又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ハ前二
項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 世襲財産カ收用、滯納處分、償還、
滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ財産ニ代
リタルトキハ所有者ハ其ノ財産ヲ以テ世襲財
産ヲ補充スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項
ノ規定ヲ準用ス

世襲財産ニ代リタル財産ニシテ他ノ財産ト混
合セサルモノニ付テハ第十八條第一項ノ規定
ヲ準用ス

宮内大臣ハ相當ノ事由アリト認ムルトキハ前
條第一項ノ認可ノ申請ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必
要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財
産タルシ財産又ハ前條ノ財産及其ノ財産ノ處
分ニ因リテ得タル財産ヲ管理セシムルコトヲ
得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシ
テ管理財産ト混合シタルモノニ付亦同シ

宮内大臣ハ管理人ヲ改任シ其ノ他財産ノ管理
ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 管理人ノ選任アリタル場合ニ於テ
本人、其ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産
設定ノ認可ヲ申請セサルトキハ管理人ハ遲滯

二百七十一

ナク管理財産ニ付其ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十五條 管理財産ハ管理人ニ於テノミ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利若ハ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基キテノミ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得

第十六條及第十八條第二項ノ規定ハ管理財産ノ果實ニ之ヲ準用ス管理財産中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十六條 有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財産ハ失爵又ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第二十七條 世襲財産ニ付第十四條第二項ノ申出アリタル後二月内ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ其ノ財産ハ初ヨリ世襲財産タル效力ヲ失フ

前項ノ期間内ハ主張ニ係ル權利ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ於テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

附則

從前ノ規定ニ依ル世襲財産及其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財産ト看做ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ世襲財産ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス本法施行前著手シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動産登記法第四百四條中「創設」ヲ「設定」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加ヘ同法第四百四十三條中「解除」ヲ認可シタルトキ「廢止」又ハ「失効」アリタルトキ「創設」ヲ「設定」ニ改ム

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ該官廳ハ遲滞ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

管理人カ其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

二百七十二

第二十九條 世襲財産ノ廢止、失効其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ管理人ヲ選任又ハ改任シタルトキ亦同シ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

登録國債又ハ有價證券ニ付世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタルトキハ第十三條ノ登録又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第三十條 管理財産中登録國債アルトキハ國債登録簿ニ管理財産タル旨ヲ登録シ管理終了シタルトキハ其ノ登録ヲ抹消スヘシ

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 世襲財産ニ關スル公告、登記又ハ登録ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第三十二條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財産ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

宮内大臣ハ世襲財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

華族世襲財産法施行規則

(大正五年九月二十日 宮内省令第七號)

第一章 世襲財産

第一條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ家實ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノタルコトヲ要ス

第二條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ土地ハ相當ノ收益ヲ生スルモノ、所有者ノ家ニ由緒アルモノハ又ハ所有者ノ邸地タルコトヲ要ス

第三條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ建物其ノ他土地ノ定著物ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ其ノ所有ニ屬スル世襲財産タル土地ノ上ニ存スルモノタルコトヲ要ス

第四條 家實又ハ不動産ニシテ特ニ歴史ノ證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ世襲財産ト爲スコトヲ得

第五條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ有價證券ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

- 一 國債證券又ハ地方債證券
- 二 政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ

株券ニシテ拂込済ノモノ
三 政府ノ特別保護者ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ社債券

第二章 世襲財産ノ設定

第六條 世襲財産設定ノ認可ノ申請書ニハ家寶ニ付テハ其ノ品目、種類及箇數、土地ニ付テハ其ノ所在、地目及面積、建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ所在、種類、構造及建坪、登録國債及有價證券ニ付テハ其ノ種類、名稱、記號番號、金額及箇數ト記載シタル財産目錄ノ外左ノ書類簿ヲ附スヘシ
一 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ理由ヲ詳記シタル書類
二 家寶ニ付テハ其ノ内容構造其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シタル書類
三 土地ニ付テハ其ノ位置、形狀ヲ示スヘキ圖面及土地臺帳ノ謄本
四 建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ位置、構造ヲ示スヘキ圖面及建物臺帳アルトキハ其ノ謄本
五 土地又ハ建物ニ付テハ登記簿ノ謄本

六 家寶又ハ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ契約ノ要旨ヲ記載シタル書類
七 申請ニ係ル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ謄本
八 登録國債ニ付テハ國債登錄簿ノ謄本及登錄所管國債事務取扱店ノ名稱ヲ記載シタル書類
九 當該財産ニ對スル權利者ノ有無、其ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類
十 民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ノ財産ニ付テハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書並權利者ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類
十一 土地收用法、森林法、鑛業法其ノ他公益ノ爲ニスル財産ノ收用徵發又ハ制限ニ關スル法令ノ適用ヲ受ケタル財産及滯納處分其ノ他公法上ノ執行處分ニ依リ差押アリタル財産ニ付テハ其ノ事實ヲ示スヘキ書類
十二 收益、生スル財産ニ付テハ總收益及純收益ノ年額並其ノ算出ノ基礎ヲ示スヘキ書類
第七條 世襲財産設定ノ認可アルコトヲ知リタ

ル相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遺言カ其ノ效力ヲ生シタル後遲滞ナク遺言者ノ氏名、遺言ノ趣旨並遺言執行者ノ有無及之アルトキハ其ノ氏名ヲ宮内大臣二届出ツヘシ遺言執行者ナキニ至リタルトキ又ハ遺言執行者ノ更迭アリタルトキ亦同シ

第八條 遺言ニ基キ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘキ場合ニ於テ遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滞ナク遺言執行者ノ選任ヲ裁判所ニ申請スヘシ

第九條 遺言執行者ハ其ノ資格ヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ遲滞ナク世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ申請書ニハ世襲財産ノ設定ニ關スル遺言書又ハ其ノ謄本及遺言書ノ檢認書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ但シ公正證書ニ依ル遺言ニ在リテハ其ノ正本又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第十條 華族世襲財産法第五條第一項ノ規定ニ依リ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書

ニ其ノ資格ヲ證スヘキ書類及家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ家政協議員會カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ理由ヲ詳記シ家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第十一條 世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ有價證券ハ申請ト同時ニ之ヲ宮内大臣ニ提出スヘシ

前項ノ證券利札付ナルトキハ支拂期ノ到來セサル利札ヲモ提出スヘシ但シ其ノ利札完備セサルトキハ財産目錄ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十二條 華族世襲財産法第六條第一項ニ依リ調査ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ家寶及不動産ニ付テハ其ノ所在ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ家寶ハ之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十三條 華族世襲財産法第六條第二項ノ規定ニ依リ財産ノ狀況ヲ調査スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ申請者ヲシテ書面ヲ以テ其ノ狀況ヲ申告セシメ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲サシ

前項ノ申告書ニハ動産、不動産、債權、債務其ノ他一切ノ財産ニ付申告書調製ノ時ニ於ケル價額ヲ附記スヘシ

第十四條 前二條ノ規定ニ依リ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲ストキハ其ノ所有者、法定代理人、保佐人、家政協議員又ハ同居ノ成年家族ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十五條 世襲財産設定ノ認可アリタルトキハ登録國債ニ付テハ登録所管國債事務取扱店ニ於テ、株券又ハ社債券ニ付テハ當該會社ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ世襲財産設定ノ認可アリタル旨及其ノ年月日ノ登録又ハ記入ヲ爲スヘシ

第十六條 宮内大臣世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ有價證券ニハ世襲財産タルコトヲ證スヘキ印章ヲ捺捺シ且認可ノ年月日ヲ記入シ其ノ利札ニハ各葉ニ世襲財産タル有價證券ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ヲ捺捺スヘシ

トキ亦同シ但シ時宜ニ依リ其ノ前ニ還付スルトアルヘシ
第十七條 第十一條及第十二條ノ規定ニ依リ提出シタル物件ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ之ヲ還付スヘシ其ノ設定ヲ認可セザル
第十八條 宮内大臣華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ付世襲財産ノ設定ヲ認可セザルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ申請者其ノ申請ヲ取下ケタルトキ亦同シ
第十九條 華族世襲財産法及本令ノ規定ニ依ル公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第二十條 前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ新聞紙ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
第二十一條 世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタル後其ノ財産ニ付異動アル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第七章ノ規定ヲ準用ス
華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依ル公告アリタル後前項ノ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣ハ之ヲ公告スヘシ
第三章 家政協議員會
第二十二條 華族世襲財産法第五條ノ規定ニ依リ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ本人、親族、後見人、後見監督人、保佐人其ノ他本人ノ家ニ特別ノ縁故アル者ノ中五人以上

ニ於テ家政協議員ヲ選定シ連署ヲ以テ其ノ選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ

第二十二條 世襲財産ヲ有スル有爵者カ無能力者トナリタル場合ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス若ハ之ヲ傾グルノ虞アルニ至リタル場合ニ於テハ家政協議員ヲ選定スヘシ此ノ場合ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 家政協議員ハ有爵者遺言ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得

第二十四條 家政協議員ハ三人以上七人以下ノ範圍内ニ於テ其ノ數ヲ定メ親族其ノ他本人ノ家ニ特別ノ縁故アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ要ス但シ次ニ掲グル者ハ家政協議員タルコトヲ得ス

- 一 未成年者、禁治産者及準禁治産者
- 二 後見人、後見監督人及保佐人
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

- 五 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留保釋又ハ責付中ニ在ル者
- 六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者
- 七 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人及保佐人
- 八 華族令第二十條第一項、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ爵ヲ返上シタル者爵ヲ襲カシメサル者華族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止セラレタル者及華族ノ族稱ヲ除カレタル者但シ華族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止ヲ解除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

家政協議員前項各號ノ一二該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
第二十五條 宮内大臣ハ重要ナル事由アルトキハ家政協議員ヲ解任スルコトヲ得
第二十六條 家政協議員ハ己ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス家政協議員其ノ職ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第二十七條 家政協議員ニ關員アルトキハ有爵

者、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條ノ規定ハ補闕員ノ選定ニ之ヲ準用ス

第二十八條 家政協議員會ハ華族世襲財產法及

本章ニ於テ定ムル任務ヲ有スルノ外世襲財產

ニ關スル事項ヲ協議スルモノトス

華族世襲財產法第五條第二項ニ掲グル事實ア

ル場合ニ於テハ家政協議員會ハ遲滞ナク世襲

財產ノ管理方法ヲ定メ宮内大臣ノ認可ヲ受ク

ヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財產

ニ關シ家政協議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ヲ指

定スルコトヲ得

第二十九條 家政協議員會ハ本人、其ノ法定代

理人若ハ保佐人又ハ各協議員之ヲ招集ス

家政協議員會ヲ招集スル者ハ會日ヨリ一週間

前ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出テ且各協議員及

第三十三條ニ掲グル者ニ通知スルコトヲ要ス

第三十條 家政協議員定數ノ過半出席スルニ非

サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第三十一條 家政協議員會ノ議事ハ出席協議員

ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

家政協議員會ノ議事ハ之ヲ議事録ニ記載シ其

ノ會議ニ出席シタル協議員及第三十三條ノ規

定ニ依リ出席シタル者之ニ署名捺印スヘシ

第三十二條 華族世襲財產法第五條第二項ノ規

定ニ依リ申請ハ家政協議員定數ノ全員出席シ

テ同意スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 本人、家ニ在ル父母、配偶者、法

定ノ推定家督相續人、本家、分家及同家ノ戸

主、後見人、後見監督人、保佐人並親族會員

ハ家政協議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコト

ヲ得

第三十四條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキ

ハ當該官吏ヲシテ家政協議員會ニ出席セシム

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏

ハ議事録ニ署名捺印スヘシ

第三十五條 家政協議員會ノ存続スヘキ事由止

ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ宮内

大臣ニ具申シ華族世襲財產法第五條第二項ノ

場合ニ於テハ家政協議員會終了ノ認可ヲ申請

スヘシ

第四章 華族世襲財產審議會

第三十六條 華族世襲財產審議會會員ハ七人ト

シ左ノ區分ニ依ル

一 宮内勅任官及同待遇職員 二人

二 有爵者 五人

第四十二條ノ規定ニ該當スル會員アルニ因リ

會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ當該事

件ノ審議ニ參加セシムル爲其ノ會員數以內ニ

於テ前項ノ例ニ從ヒ臨時會員ノ數ヲ増加スル

コトヲ得

第三十七條 華族世襲財產審議會會員ハ勅任待

遇トス但シ官職アル者其ノ官職ニ付享クル待

遇高キトキハ其ノ待遇ニ依ル

第三十八條 華族世襲財產審議會ノ議長ハ會員

中ヨリ勅命セラレヘシ

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務

ヲ代理ス

第三十九條 華族世襲財產審議會ハ宮内大臣之

ヲ招集ス

第四十條 華族世襲財產審議會ハ會員四人以上

出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 華族世襲財產審議會ノ議事ハ出席

會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルト

キハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條 華族世襲財產審議會會員ニシテ會

議ノ事項ニ付キ特別ノ關係ヲ有スル者ハ會議

ニ出席スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル特別關係ノ有無ハ審議會之ヲ

決ス

第四十三條 宮内大臣ハ華族世襲財產審議會ニ

出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ宮内高等官ヲシテ

之ヲ陳述セシムルコトヲ得

第四十四條 華族世襲財產審議會ハ其ノ決議ニ

依リ宮内大臣ヲ經テ本人其ノ法定代理人、保

佐人又ハ家政協議員ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 華族世襲財產審議會ノ議事ハ之ヲ

議事録ニ記載シ出席會員之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 華族世襲財產審議會ノ議長ハ審議

會ノ決議書ニ議事録ヲ添ヘ宮内大臣ニ答申ス

ヘシ

第五章 權利ノ申出

第四十七條 華族世襲財產法第八條ノ規定ニ依

ル權利ノ申出ヲ爲スニハ申出書ニ左ニ掲グル

書類其ノ他權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

一 申出ツル權利ニ關スル登記簿又ハ登記簿

二百七十八ノ一

ノ抄本

二 建物ノ所有ヲ目的トスル登記ナキ地上權
又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地
ノ賃借人カ公告ニ掲ケタル土地ノ上ニ登記
シタル建物ヲ有スルトキハ建物登記簿ノ抄
本

三 公告ニ掲ケタル土地ニ生立スル立木ニ付
テハ立木登記簿ノ抄本

四 公告ニ掲ケタル財産カ民事上ノ強制執行
假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ニ在ル
トキハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書

第四十八條 前條ノ申出アリタルトキハ宮内大
臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請者ニ其ノ申出
ノ要旨ヲ通達スヘシ

申請者前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ申出ヲ承
認スルヤ否ヤヲ遲滞ナク宮内大臣ニ申出ツヘ
シ

第四十九條 前二條ノ規定ハ華族世襲財産法第
十四條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ニ之ヲ準用ス

第六章 臺帳
第五十條 世襲財産ニ關スル臺帳ハ華族世襲財
産臺帳及管理財産臺帳ノ二種トス

臺帳ハ財産所有者毎ニ別冊トス但シ登錄事項
夥多ナルトキハ更ニ之ヲ分冊ト爲スコトヲ得

第五十一條 臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ紙數及調製
ノ年月日ヲ記入シ主官部長官之ニ捺印スヘ
シ前條第二項ノ規定ニ依リ分冊ト爲シタルト
キ其ノ各冊ニ付亦同シ

第五十二條 臺帳ニ登錄スヘキ事項及登錄ノ方
式ハ附錄様式ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 世襲財産設定ノ登錄ハ認可ノ當日
之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ華族世襲財産法第二十三條又ハ
第二十八條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル場合
ニ於テ其ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十四條 臺帳ノ登錄事項ニ異動アリタルト
キハ異動ニ係ル既登錄ノ事項ハ之ヲ抹消シ新
ニ登錄スヘキ事項ハ之ヲ別冊ニ登錄スヘシ

第五十五條 世襲財産ノ廢止アリタルトキハ廢
止ノ認可ノ當日、其ノ失効アリタルトキハ遲
滞ナク其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十六條 華族世襲財産法第二十三條又ハ第
二十八條ノ規定ニ依リ命シタル管理終了シタ
ルトキハ終了ノ認可ノ當日其ノ登錄ヲ抹消ス

ヘシ

第五十七條 臺帳ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコ
トヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ更正シ且年月
日ヲ記シテ主官部長官捺印スヘシ

第五十八條 抹消ハ朱線ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七章 世襲財産ノ異動

第五十九條 世襲財産ニ付相續ノ開始アリタル
トキハ家督相續人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大
臣ニ届出ツヘシ

第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル名義變
更ノ登錄及記入ニ付之ヲ準用ス

第六十條 土地收用法ニ依リ世襲財産タル土地
ヲ收用スル場合ニ於テ協議ニ依リ補償金ヲ定
メ得ヘキトキハ起業者ハ協議成立前其ノ協議
ノ要旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

地方長官ハ收用審査會ヨリ裁決ノ報告ヲ受ケ
又ハ收用審査會ニ代リテ裁決ヲ爲シタルトキ
ハ直ニ其ノ裁決ノ要旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘ
シ土地收用法第三十四條ノ規定ニ依リ地方長
官ノ公告又ハ通知カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
及土地收用法第七十二條ノ規定ニ依リ收用審
査會ノ裁決カ取消サレタルトキ其ノ事實ニ付

亦同シ

土地所有者ハ土地收用法第六十二條ノ規定ニ
依リ收用審査會ノ裁決カ其ノ效力ヲ失ヒタル
トキハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シ訴願又ハ
訴訟ノ提起アリタルトキハ土地所有者ハ遲滞
ナク左ニ掲ケル事項ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

一 訴願又ハ訴訟ニ係ル事項
二 訴願ノ裁決若ハ却下アリタルトキ又ハ裁
判所ノ判決若ハ裁決アリタルトキハ其ノ要
旨

三 訴願又ハ取下アリタルトキハ其ノ旨
四 通常裁判所ノ判決ニ對シ上訴アリタルト
キハ其ノ旨及上訴判決ノ要旨

第六十二條 前條ノ規定ハ世襲財産カ公益ノ爲
メニスル收用徵發又ハ制限ニ關スル法令ニシ
テ土地收用法以外ノモノノ適用ヲ受ケ他ノ財
産ニ代ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條 世襲財産ニ對シ假差押若ハ假處分
ヲ爲シ又ハ強制執行若ハ競賣手續ニ著手シタ
ルトキハ當該官署又ハ執達吏ハ遲滞ナク其ノ
旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ手續ノ停止變更又

ハ消滅アリタルトキ亦同シ
第六十四條 滯納處分ニ依リ世襲財産ヲ差押ヘ
之ヲ賣却セムトスルトキハ當該官公署ハ賣却
手續ノ開始前其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ
前項ノ報告後ニ於テ差押ノ解除アリタルトキ
ハ當該官公署ハ滯納ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ
報告スヘシ

第六十五條 前二條ノ場合ニ於テ世襲財産ヲ換
價シ賣得金ニ剩餘アルコト確定シタルトキハ
當該官公署又ハ直ニ其ノ金額ヲ宮内大臣ニ報
告スヘシ

第六十六條 世襲財産タル國債ノ償還アルヘキ
コト確定シタルトキハ國債事務取扱店ハ直ニ
其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ハ世襲財産タル地方債證券若ハ社
債券ノ償還アルヘキコト確定シタルトキ又ハ
株券ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スヘキ財産アル
トキ其ノ發行者ニ之ヲ準用ス

第六十七條 世襲財産ノ保險者ハ保險金ヲ支拂
フヘキコト確定シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ宮
内大臣ニ申出ツヘシ

分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ其
ノ世襲財産ニ代リテ自己ニ歸スヘキ財産アル
トキハ豫メ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ
第六十條第二項及第六十二條乃至第六十四條
ノ規定ニ依リ前項ニ掲ケタル事由ノ變更又ハ
消滅アリタル場合ニ於テモ所有者ハ滯納ナク
其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ
第六十九條 世襲財産ニ付左ニ掲ケル事實アリ
タルトキハ所有者ハ滯納ナク其ノ時期、事由
其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ宮内大臣
ニ届出ツヘシ
一 第六條ノ規定ニ依リ提出シタル財産目錄
其ノ他ノ添附書類ノ記載事項ニ異動アリタ
ルトキ
二 世襲財産ノ全部又ハ一部カ其效力ヲ失ヒ
タルトキ
三 世襲財産ノ全部又ハ一部カ滅失若ハ紛失
シタルトキ又ハ之ヲ發見シタルトキ
四 收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ
他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有
者ニ歸シタル財産アルトキ
第七十條 世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札

第六十八條 世襲財産ノ所有者ハ收用、滯納處

カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代證券ノ交付ヲ
受ケタル者ハ滯納ナク宮内大臣ニ其ノ證券ヲ
提出スヘシ此ノ場合ニハ第十六條ノ規定ヲ準
用ス

有價證券ノ利札カ滅失又毀損シタル等ノ爲代
利札ノ交付ヲ受ケ又ハ利札ノ盡了ニ因リ繼足
利札ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル其ノ利札
又ハ繼足利札ノ提出及印章ノ押捺亦前項ノ例
ニ依ル

第七十一條 世襲財産廢止ノ認可ノ申請書ニハ
廢止セムトスル財産ノ目錄及廢止ノ事由ヲ詳
記シタル書類ヲ添附スヘシ
他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セム
トスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外之
ニ代ルヘキ財産ニ關スル詳細ナル説明書ヲ添
附スヘシ

第七十二條 第十條第一項ノ規定ハ有爵者ハ法
定代理人又ハ保佐人カ前條ノ申請ヲ爲ス場合
ニ之ヲ準用ス

家政協議員會アルヘキ場合ニ於テ有爵者カ世
襲財産廢止ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申
請書ニ家政協議員定數ノ全員ノ同意書ヲ添附

スヘシ

第七十三條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ世
襲財産廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタル
場合ニ於テ其ノ財産ニ關スル登録及記入ノ抹
消ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 世襲財産ノ廢止又ハ失効アリタル
場合ニ於テ宮内大臣ハ有價證券及其ノ利札ニ
押捺シタル世襲財産及其ノ利札タルコトヲ證
スヘキ印章竝記入シタル年月日ヲ抹消スヘシ
第七十六條 第十五條ノ規定ハ世襲財産ノ異動
ノ場合ニ於ケル登録及記入ノ變更ニ付之ヲ準
用ス

第八章 管理財産

第七十七條 他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産
ヲ廢止セムトスル者華族世襲財産法第二十三
條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲
スルトキハ廢止ノ認可ノ申請ト共ニ其ノ旨ヲ
宮内大臣ニ申出ツヘシ

第七十八條 前條ノ規定ハ收用、滯納處分、償
還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産
ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スル財産アルトキ其

ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合ニ之ヲ準用ス華族世襲財産法第二十七條ノ規定ニ依リ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十八條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合亦同シ

前項ノ申出ハ所有者カ第六十八條又ハ第六十九條ノ届出ヲ爲ス際之ヲ爲スヘシ

第七十九條 宮内大臣管理人ヲ選任スルトキハ管理スヘキ財産ヲ指定スヘシ
管理人ハ世襲財産設定ノ認可アル迄前項ノ財産ヲ管理スヘシ

第八十條 第六十條、第六十二條乃至第六十四條及第六十六條乃至第六十八條ノ規定ニ依ル報告、届出又ハ申出アリタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ豫メ管理人ヲ選任スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル管理人ノ選任ハ之ヲ報告、届出又ハ申出ヲ爲シタル者ニ通知スヘシ

第八十一條 管理人ハ遅滞ナク財産目録ヲ調製シ之ニ署名捺印スヘシ
財産目録ハ二通ヲ調製シ之ヲ宮内大臣ニ提出ス

シテ其ノ承認ヲ受ケ其ノ一通ハ管理人之ヲ保管スヘシ
宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ目録ノ調製ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ立會官吏ハ財産目録ニ署名捺印スヘシ

第八十二條 管理人民法第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ爲サムトスルトキハ豫メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十三條 宮内大臣ハ管理財産ノ所有者ニ對シ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ命スルコトヲ得

第八十四條 管理財産中登録國債ニ付テハ登録所管國債事務取扱店ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ管理財産タル旨、管理ヲ命セラレタル年月日及管理人ノ氏名、住所ノ登録ヲ爲スヘシ
前項ノ規定ハ管理ノ終了シタル場合ニ於ケル登録ノ抹消及管理人ノ改任アリタル場合ニ於ケル登録ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 管理財産ニ異動アリタルトキハ管理人ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第五十九條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ届出書ニハ異動ニ係ル財産ノ目録ヲ添附スヘシ此ノ場合ニハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

管理財産ノ異動ニ關スル登録及其ノ變更抹消ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 管理ヲ繼續スヘキ事由止ミタルトキハ管理人ハ遅滞ナク管理調書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ管理終了ノ認可ヲ申請スヘシ管理人ノ改任アリタルトキ前任管理人ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ管理調書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ハ特ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第八十一條 規定ハ管理調書ノ調製及其ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第九十條 世襲財産タル有價證券又ハ利札タルコトヲ證スヘキ印章ノ様式並捺捺及抹消ノ方法ハ別ニ之ヲ告示ス

附則
本令ハ大正五年法律第四十五號華族世襲財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
華族世襲財産法附則第一項ノ規定ニ依リ世襲財産タル有價證券ノ利札ニハ第十一條及第十六條ノ規定ヲ準用ス
從前ノ華族世襲財産臺帳ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

●神社財産ニ關スル件

(四十一年三月法律第二十三號)

第一條 本法ニ於テ神社ト稱スルハ官國幣社、府縣社等ノ神社ヲ謂ヒ財産ト稱スルハ神社ノ不動産及寶物ニシテ登録ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ神社財産ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無効トス神社ノ負債ニ付亦同シ

第三條 神社財産ヲ處分スル場合ニ於テ其ノ神社ノ神職、氏子總代及崇敬者總代ハ之ヲ取得

第九章 雜則

第八十七條 本令中世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ其ノ増加ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十八條 宮内大臣ハ華族世襲財産法第三十一條ノ規定ニ依ル費用ヲ算定シ名義人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第八十九條 第十四條ノ規定ハ華族世襲財産法第三十二條ノ規定ニ依リ世襲財産ノ検査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

スルコトヲ得ス
第四條 神社財産タル境内地、社殿其ノ他境内
地ニ在ル工作物及寶物ハ之ヲ差押フルコトヲ
得ス

第五條 神社ノ不_レ産及寶物ハ地方廳ニ於テ保
管スル臺帳ニ登錄ヲ受_レ可シ
登錄ニ關スル事項及登錄ト不動産登記トノ關
係ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四十一
年勅令第七十六號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施
行ス)

●神社財産ノ登録ニ 關スル件

(四十一年七月勅令第七十七號)
第一條 神社財産ノ登録ハ神社所在地ノ地方廳
ニ於テ之ヲ爲ス
第二條 神社財産ヲ登錄スル臺帳ハ神社財産登
録臺帳ト稱シ不動産登錄臺帳及寶物登錄臺帳
ノ二種トス
神社財産登錄臺帳ニ登錄スヘキ事項ハ左ノ如
シ

二百七十八ノ八

一 土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町、字
土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境内地
境外地ノ區別

二 社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町
村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社
殿其ノ他工作物ノ種類、若名稱又ハ番號ア
ルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ
間數、境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモ
ノトノ區別

三 寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、
若作者又ハ傳來明カナルトキハ其ノ作者又
ハ傳來

四 登録ノ年月日、番號

第三條 神社ハ不動産又ハ寶物ヲ取得シタルト
キハ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ但シ土地
及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登記ヲ經
タルコトヲ要ス

前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間内ニ申請ヲ爲
スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタル
トキヨリ十五日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同
シ

第四條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ爲シタル
トキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ヲ登
記所ニ囑託スヘシ

第五條 神社ハ神社財産ヲ處分シタルトキ若ハ
其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格
ヲ失ヒタルトキハ七日以内ニ登録ノ抹消ヲ申
請スヘシ

第六條 登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社
財産ノ登記アル不動産ニ付民事訴訟法第七日
條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項
ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク神社所在地
ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第七條 登記ヲ抹消スヘシ
動産ノ登録ヲ抹消スヘシ
第七條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ抹消シタ
ルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ノ
抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附則
本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨ
リ之ヲ施行ス

神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動産及寶物
ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ手
續ヲ爲スヘシ

●國籍法

(三十二年三月十五日法律第六十六號)
第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ

之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死
亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ

第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リ
テ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ
懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合
ニハ之ヲ適用セズ但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ
爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル
場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ
日本人トス

第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ
知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子
ハ之ヲ日本人トス

第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ
取得ス
一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ
二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ
三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレ
タルトキ

第六條 外國人カ認知ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取
得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一 本國法ニ依リテ未成年者タルコト
二百七十八ノ九

二 外國人ノ妻ニ非サルコト
 三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
 四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト
 第七條 外國人カ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化チ爲スコトヲ得
 内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス
 一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
 二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト
 三 品行端正ナルコト
 四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト
 五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト
 第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化チ爲スコトヲ得ス
 第九條 左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化チ爲スコトヲ得
 一 父又ハ母ノ日本人タリシ者
 二 妻ノ日本人タリシ者
 三 日本ニ於テ生マレタル者

四 引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者
 前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化チ爲スコトヲ得ス但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラス
 第十條 外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化チ爲スコトヲ得
 第十一條 日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラズ内務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得
 第十二條 歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス
 歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス
 第十四條 日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セザリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化チ爲スコトヲ得

第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス
 前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス
 第十六條 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス
 一 國務大臣ト爲ルコト
 二 樞密院ノ議長副議長又ハ顧問官ト爲ルコト
 三 宮内勅任官ト爲ルコト
 四 特命全權公使ト爲ルコト
 五 陸海軍ノ將官ト爲ルコト
 六 大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト
 七 帝國議會ノ議員ト爲ルコト
 第十七條 前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化チ許可シタル者ニ付テハ國籍ヲ取得ノ時ヨリ五年ノ後其他ノ者ニ付テハ十年ノ後内務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得
 第十八條 日本人カ外國人ノ妻ト爲リ夫ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ
 第十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍

籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限リ日本ノ國籍ヲ失フ
 第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ
 第二十一條 外國ニ於テ生マレタルニ因リテ其國ノ國籍ヲ取得シタル日本人カ其國ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ノ離脱チ爲スコトヲ得
 前項ノ許可ノ申請ハ國籍ノ離脱チ爲ス者カ十五年未滿ナルトキハ法定代理人ヨリ之ヲ爲シ滿十五年以上ノ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 繼父、繼母、嫡母又ハ後見人カ前項ノ申請又ハ同意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 國籍ノ離脱チ爲シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ
 第二十二條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ
 第二十三條 前條ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ適用セス但妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚チ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家チ去リタル

トキハ此限ニ在ラス
第二十三條 日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 滿十七年以上ノ男子ハ前六條ノ規定ニ拘ハラズ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス
現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前七條ノ規定ニ拘ハラズ其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條 第二十条條第二十條ノ二又ハ第二十一条ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所有スルトキ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十条ノ規定ニ在ラス

第四條 市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス
第五條 市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス
第六條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村、市町村長及ヒ市役所並ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條 第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戶籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス
第八條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス
第二章 戶籍簿
第九條 戶籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタ

家ニ在ル父、父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ母、母之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖父、祖父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス
附則
第二十八條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

戶籍法(大正三年三月) 法律第二十六號

第一章 戶籍事務ノ管掌
第一條 戶籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條 市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戶籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス
第三條 戶籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戶籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

ル者ニ付キ戶主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス
第十條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編製シテ帳簿ト爲ス
一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條 戶籍ハ正副二本ヲ設ケ
正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス
第十二條 新ニ戶籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遲滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條 戶籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村役場外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第十四條 戶籍簿ヲ閱覽シ又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手数料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シニ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項

ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス
謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第十五條 戶籍簿ノ全部若クハ一部ヲ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス
第十六條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戶籍ハ之ヲ戶籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス
除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戶籍ニ之ヲ準用ス(第三章以下略之)

●府縣制(明治三十二年三月)

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手數料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

●郡制(明治三十二年三月)

(法律第六十五號)

第二條 郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手數料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 八 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第九十四條 使用料手數料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
本條第一項ノ場合ニ於テ市町吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町吏員ヨリ亦訴願及訴訟ヲ提出スルコトヲ得
本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
第二百五條 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ
第二百六條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 二 寄附若ハ補助ヲ爲ス事
- 三 不動産ノ處分ニ關スル事

- 四 第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 五 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事
- 六 特別會計ヲ設クル事

●市制抄録

(明治四十四年法律第六十八號)

- 第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル
- 第二條 市ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ
- 第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ

頁フ

- 第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得
- 市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得
- 市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
- 第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス
- 第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
 - 一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
 - 二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
 - 四 決算報告ヲ認定スル事
 - 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
 - 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
 - 七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分

ニ關スル事

- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及ヒ權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事
- 十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
- 第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 一 市長
 - 二 助役
 - 三 名譽職參事會員
- 前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス
- 第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ
 - 一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬ス

ル事件

- 第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
 - 一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
 - 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
 - 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
 - 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
 - 五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事
 - 六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項
- 第九條 收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ
- 市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得
- 第三十一條 市税、使用料、手数料、加入金、過剰金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之

ヲ督促スヘシ
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履
行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メ
サルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促ス
ヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更
ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付
ヲ命スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依
リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得
前二項ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ
國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ
次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付
テハ國稅ノ例ニ依ル
前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ア
ルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服
アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ
訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定
ニ至ル迄執行ヲ停止ス

二百八十四

第四百四十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ
營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又
ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財
産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅
令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用
ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負
擔トス
前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ
分別スヘシ
第四百四十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必
要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見
ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定
シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決
セシムルコトヲ得
第四百四十八條 第四十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ
關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ
之ヲ定ム
第八章 市町村組合
第四百四十九條 市町村ハ其事務ノ一部ヲ共同處
理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得
テ市町村組合ヲ設ケルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係
アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決
ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合
ヲ設ケルコトヲ得
市町村組合ハ法人トス
第五百五十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令
中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關スル
規定ヲ準用ス
第六百六十七條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許
可ヲ受クヘシ

- 一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
- 二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分
ニ關スル事
- 三 第一百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢
止スル事
- 四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
- 五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
- 六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅
ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 七 第二百二十二條第一項第二項及第四項ノ規
定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セ
シムル事

八 第二百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課
ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ賦課ヲ爲ス
事
九 第二百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現
品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル
夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
●町村制抄録
(明治四十四年四月法律第六十九號)

- 第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル
- 第二條 町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ
範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣
例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル
事務ヲ處理ス
- 第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住
民トス
- 町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財産及營造物ヲ
共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義
務ヲ負フ
- 第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ
事務ニ關シ町村條例ヲ設ケルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外町村規則ヲ設ケルコトヲ得
町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及町村規定ヲ設ケ又ハ改廢スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事
- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
- 七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外

新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

第十一條 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

- 町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
- 一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付キ其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
 - 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
 - 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
 - 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
 - 五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事
 - 六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項
- 第十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ
- 町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設

又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第一百一條 町村税、使用料、手数料、加入金、過料、過意金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルモノアルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徴收金ハ府縣ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第二百二十四條 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第二百五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アルトキハ郡長ハ町村會ノ意見ヲ徴シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第二百二十八條 第二百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 町村組合

第二百二十九條

町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

第三百三十六條

町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條

左ノ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受ケヘシ
一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

- 二 特別基本財産及積立金數等ノ管理及處分ニ關スル事
- 三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
- 四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
- 五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
- 六 均一ノ稅率ニ依リシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 七 第一百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
- 八 第一百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
- 九 第一百五條ノ規定ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

●農會令抄錄

(明治三十八年勅令第二百二十五號)

第一條 農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス

會及府縣農會トス

本令ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條

農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條

市町村農會ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル但シ東京府農會ニ在リテハ小笠原島及伊豆七島ヲ除ク

特別ノ事由アルトキハ市町村農會ノ區域ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市農會ニ在リテハ地方長官、町村農會ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ但シ市ノ區域ノ一部ヲ加ヘテ町村農會ノ區域ト爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ

市ト郡トノ區域ニ涉リテ市町村農會ノ區域ノ設定アリタルトキハ第一項郡農會ノ區域モ亦自ラ之ニ伴ヒ變更アリタルモノトス
北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ許可

ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第四條

市町村農會ハ其ノ區域内ニ於テ國及公共團體ヲ除クノ外耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域内ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域内ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十九條

會長ハ會務ヲ總理シ農會ヲ代表ス副會長ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得
評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ及會務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス
幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌ル

●水利組合法抄錄

(明治四十二年法律第五十號)

第一條 水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ法人トス
第四條 水利組合ハ分チテ左ノ二種トス
一 普通水利組合
二 水害豫防組合

第五條 普通水利組合ハ灌溉排水ニ關スル事業
爲設置スルモノトス
第七條 水害豫防組合ハ水害豫防ニ關スル事業
爲設置スルモノトス

第三十三條 府縣知事ハ水利組合關係地ノ郡長
又ハ市町村長ノ内一入チ指定シ其ノ組合ノ事
務ヲ管理セシムヘシ
府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直
ニ之ヲ告示スヘシ
管理者タル郡長又ハ市町村長故障アルトキハ
其代理者之ヲ代理ス

第三十七條 管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ
事務ヲ擔任ス

第七十一條 水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ
必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許
可ヲ得テ水利組合ノ聯合ヲ設クルコトヲ得
水利組合聯合ハ之ヲ法人トス
水利組合聯合ニシテ其聯合組合ノ數ヲ増減シ

事業ト爲スコトヲ得サル特別ノ事情アル場合
ニ限リ左ノ事業ヲ目的トシ一定ノ地區ヲ定メ
テ土功組合ヲ設置スルコトヲ得
一 農業上必要ナル道路、橋梁、用水、排水又
ハ堤塘等ヲ施設維持スルコト
二 農業上ノ有害物ヲ除去シ又ハ豫防スルコ
ト

第二條 組合ハ之ヲ法人トス
第三條 組合員ハ其ノ組合設置地區内ニ於テ組
合事業ノ爲直接ニ利益ヲ享クル者及其ノ利益
ヲ享クル土地ヲ所有又ハ占有スル者ニ限ル
第四條 組合ヲ設置セントスル者ハ豫メ地區ヲ
定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三
分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ規約
ヲ議定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
第五條 北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ組
合加入ニ同意セサル者ニ對シ之カ加入ヲ命ス
ルコトヲ得
第六條 組合員組合費ヲ完納セサルトキハ區町
村長又ハ戶長ハ組合ノ請求ニ依リ區町村稅徵
收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス
第七條 國庫ハ組合事業ニ對シ其ノ費用ノ一部

又ハ組合事業ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ組
合ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其
聯合ヲ解カムトスルトキ亦同シ
水利組合聯合ニ關シテハ水利組合ニ關スル規
定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナ
ル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ
定ム
第七十八條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可
ヲ受クヘシ
一 組合規約ヲ設定改正スル事
二 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
三 不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ
對シ特ニ賦課ヲ爲ス事
四 加入金使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ
變更スル事
五 積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事
六 寄附及補助ヲ爲ス事
七 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

●北海道土功組合法

(明治三十五年三月七日法律第十二號)
第一條 北海道ニ於テ區町村又ハ區町村組合ノ

ヲ補助スルコトヲ得
第八條 本法ニ基ツキ北海道廳長官ノ爲シタル
處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコト
ヲ得
第九條 組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記
又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス
第十條 組合ハ主務大臣、北海道廳長官及北海
道廳支廳長之ヲ監督ス
第十一條 本法ニ定ムルモノ、外土功組合ニ關
シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒造組合法

(明治三十八年法律第八號)

第一條 本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒
濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ
第二條 酒類製造者ハ稅務署管内チ一區域トシ
酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ
從ヒ特別ノ區域ニ依ルコトヲ得
第三條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上
ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト
ス
二百九十一

爲ス

第四條 酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

二種以上ノ酒類ノ製造者組合ヲ設置セムトスルトキハ各種毎ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條 酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六條 酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲メ酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲メ同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

二百九十二

第十條 政府ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規定ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ行爲ヲ制止シ、役員改選ヲ命シ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外酒造組合及酒造組合聯合會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
第十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 酒造税法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項酒造組合ニシテ其區域内ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルトキハ同區域内ニ於テ未タ組合ニ加入セザル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

重要物産同業組合

法(明治三十三年法)
律第三十五號

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事業ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ輔佐シ組長故障アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

附則
第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ

二百九十三

準用ス

●畜産組合法抄録

(大正四年一月十三日法律第一號)

- 第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ
- 第二條 牛羊豚ヲ飼養スル者又ハ馬ノ生産ヲ業トスル者ハ本法ニ依リ畜産組合ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 畜産組合ハ法人トシ畜産上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス
- 第四條 組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ經營上必要アル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ畜産上ノ施設ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 組合ハ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ區域内ニ於テ家畜ヲ所有シ又ハ保管スル者ノ委託ニ依リ委託者ノ費用ヲ以テ家畜衛生上必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 組合ヲ設置セムトスルトキハ都市ノ區域ニ依リ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ特別ノ事情ノルトキハ都市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

二百九十四

前項ノ場合ニ於テ家畜又ハ組合員タルヘキ者ノ種類二種以上アルトキハ其ノ種類毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ヘシ

前項組合員タルヘキ者ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 組合ノ名稱中ニハ畜産組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユヘシ
畜産組合ニ非ラサルモノハ其ノ名稱中ニ畜産組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス(以下略)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正四年八月一日ヨリ施行)

產牛馬組合法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ハ本法ニ依リ之ヲ設置シタルモノト看做ス但シ其ノ定款中本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スルモノアルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之カ變更ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

●外國領海水産組合

(明治三十五年法律第三十五號)

第一條 條約又ハ許可ニ依リ本國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル帝國臣民ハ本法ニ依リ水産組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ノ區域ハ利害關係アル營業區域又ハ住所區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ外務農商務兩大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムルトキハ此限リニ在ラス

第五條 組合ノ設置アリタルトキハ組合、組合聯合會又ハ組合員ノ名ヲ以テスルノ外他人ノ名義ニ依ルト他人ニ雇ハルル者トナ問ハス組合ヲ組織セル營業者ト同一ノ種類ノ營業ニ從事スルノ目的ヲ以テ組合ノ營業區域ニ渡航シ又ハ船舶若ハ漁具ヲ運送スルコトヲ得ス但シ前

條但書ニ依リ加入セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ過料ニ第五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七條 前條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第百六條乃至第百八條ノ規定ヲ準用ス

第八條 組合及組合聯合會ニ關シテハ本法ニ規定アルモノ、外重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ外務農商務兩大臣之ヲ行フ

附則

第九條 本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本法施行以前ニ於テ條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ノ業ニ關シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ組合聯合會ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ第三條ニ依リ設置シタルモノト看做ス

二百九十五

永代借地權登記之部

◎外國人又ハ外國法

人ノ物權登記ニ關スル件

(三十二年三月十八日法律第七十一號)
外國人又ハ外國法人カ改正條約實施前ニ爲シタル不動產又ハ船舶ニ關スル物權ノ得喪及ヒ其變更ニ付登記ヲ爲スヘキ場合及ヒ其ノ登記ノ手續ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

◎外國人又ハ外國法人ノ永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十日法律第三十九號)
第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス
永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目

的タルコトヲ得

地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條ノ二 永代借地權ノ競賣ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外民事訴訟法及競賣法中不動產ノ競賣ニ關スル規定ヲ準用ス(追加四十一年法律第六十二號)

第二條ノ三 競賣ノ申立書ニハ永代借地券ヲ添附スヘシ申立人地券ヲ提出スルコト能ハサルトキハ地方廳ノ認證アル地券ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)

第二條ノ四 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ地方廳ニ通知スヘシ(同上)

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ競賣手續中地券ニ移轉ノ記載ヲ爲スコトヲ得ス(同上)
第二條ノ五 民事訴訟法第七百條第一項又ハ競

賣法第三十三條第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ競選人カ取得シタル永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ地方廳ニ囑託スヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テ申立人ヨリ提出シタル地券アルトキハ囑託書ニ之ヲ添附スヘシ(同上)

第二條ノ六 地方廳ニ於テ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ返還スヘシ(同上)

第二條ノ七 地方廳カ第二條ノ五ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ囑託書ニ地券ノ添附ナキトキハ地券名義人ニ對シ地券ノ提出ヲ命スヘシ(同上)

地券名義人カ地券ヲ提出シタルトキハ遲滞ナク其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ送付スヘシ(同上)

第二條ノ八 納券名義人カ地券ヲ提出セサルトキハ地方廳ハ競選人ニ對シ更ニ新地券ヲ發給スヘシ(同上)

提出セサル地券ハ新地券ノ發給ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ(同上)
第二條ノ九 前條第一項ノ規定ニ依リ發給スヘキ地券ハ地方廳ノ記錄ニ基キ原地券ノ全文ヲ

掲ケテ之ヲ作成シ且競選人ノ氏名、國籍、住所、新地券發給ノ原因、其ノ日附及地方長官ノ官氏名ヲ記入シ官印ヲ捺捺スヘシ(同上)

第二條ノ十 地方廳カ第二條ノ八第一項ノ規定ニ依リ新地券ヲ發給スルトキハ其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ遲滞ナク之ヲ裁判所ニ送附スヘシ(同上)

第二條ノ十一 地券カ第二條ノ八第二項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ舊地券名義人ニ通知シ且官報及新聞紙ヲ以テ公告スヘシ(同上)

第二條ノ十二 地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載シタルトキハ遲滞ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ニハ地券ノ謄本ヲ添附スヘシ(同上)

第二條ノ十三 管轄登記所ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ移轉競落ニ因リテ消滅シタル永代借地權上負擔記入ノ抹消及競賣申立記入ノ抹消ノ登記ヲ爲スヘシ(同上)

本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

◎永代借地登記ニ關スル件

(明治三十四年九月二十日勅令第七十八號)

第一條 永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第二條ノ十四 裁判所ハ第二條ノ六ノ規定ニ依リ地券ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ第二條ノ七

第二項及第二條ノ十ノ規定ニ依リ地券ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ競落人ニ交付スヘシ(同上)

第二條ノ十五 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方廳ニ通知スヘシ(同上)

第二條ノ十六 永代借地權ノ競賣ニ關スル規定ハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課ス

第四條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

附則

第五條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ

第二條 永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條 登記簿ハ永代借地登記簿及永代借地建物登記簿ノ二種トス

第四條 永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄、ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス
乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス
丁區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス
順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第五條 永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄、ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス
丙區事項欄ニハ先取特權質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス
順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條 未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條 登記所ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハズ職權ヲ以テ永代借地權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル届出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條 明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限リ本令ニ依リテ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 明治三十二年勅令第三百二十九條ニ依リ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動

三百

產ノ表示ヲ移シ相營區順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條 永代借地權ハ他ノ名稱ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條 永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セザルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條 本令ニ規定セザル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附則

第十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

附錄第一號

永代借地登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

第 號		部 題 表	
區		(示表地借代永)	
甲	永代借地登記簿	示	示
	事項欄	示	示
	事項欄	示	示
	事項欄	示	示
乙	事項欄	示	示

紙數表紙ヲ除キ 地方裁判所長	附錄第二號 永代借地建物登記簿 區裁判所
-------------------	----------------------------

第 號		(示表物建) 部 題 表	
甲	永代借地建物登記簿	丁	示 示 示 示 示
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄

丁	(權役地)區丙	(作承禮申)區乙 <small>禮小及上</small>	(權地借代承)
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄

(權借貸)區戊	(當及質特先)區 <small>權抵取</small>	區
事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄
事項欄	事項欄	事項欄

スル登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス

◎帝國臣民カ外國人

ノ永代借地權ノ取

得ニ關スル件

(明治三十四年九月二十日勅令第三百七十九號)

第一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ
前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

第二條 帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケス

◎同稅務署へ通知ノ

件(明治三十四年九月二十五日
內務省令 第二十四號)

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第三百七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

耕地整理登記之部

◎耕地整理法

(明治四十二年法律第三十號)

第一章

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ
一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換、其他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
二 前號ノ事項施行ノ爲メ若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理
三 前二號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府、縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕
第二條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者ヲ謂フ
第二條ノ二 登記シタル地上權、永小作權、土地賃借權ヲ有スル者又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依リ豫約開墾者ハ土地ノ所有者及賃貸人ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ土地ニ付第

三條ノ規定ニ依リ整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得(追加大正三年法律第三十二號)
前項ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者及賃貸人ハ其ノ土地ニ付テハ整理施行者又ハ組合員タルコトヲ得ス

第二條ノ三 官有地取扱規則ニ依リ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス(追加同上)
耕地整理組合ノ組合員ト爲リ又ハ爲ルヘキ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者ハ第三十四條、第四十七條乃至第五十條、第五十五條、第五十六條及第五十九條ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

第三條 耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作リ關係人ノ同意書並第二條ノ二ノ場合ニ於ケル土地ノ所有者及賃貸人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若クハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地

方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス

地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三項ニ對抗スルコトヲ得ス

第五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承認人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第六條 第二項ノ第一項ノ規定ニ依リ整理施行者又ハ組合員ト爲リタル者ノ耕地整理ニ關スル權利義務ハ其ノ地上權、永小作權、賃借權又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依リ權利ト共

ニ其ノ承繼人ニ移轉シ地上權、永小作權又ハ賃借權消滅シタルトキハ土地ノ所有者又ハ賃貸人ニ移轉ス(追加大正三年法律第二二二號)

第六條 本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 主務大臣、地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲ニ必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 前條ノ規定ハ耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者カ整理施行ノ爲ニ必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管廳

市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閲覧又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所又ハ土地臺帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合ノ組合長組合副長又ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 耕地整理施行ノ爲シ土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲スコキハ登録稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲ニ國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 本法ニ依リ開墾シ地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條、第十一條及第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス埋立地又ハ干拓地ニ付亦同シ(改正四

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ニ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ地租ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ地租ノ合計額ト看做ス(改正大正三年法律第三二二號)

前項ノ場合ニ於テ地租ノ稅率同一ナラサル土地アルトキハ現地價ニ依リ算出シタル地租合計額ヲ每筆相當ニ配賦シ當該地目ノ稅率ヲ以テ除シタル金額ヲ其ノ配賦地價トス(追加四

十三年四月法律第四十四號)

前二項ノ規定ハ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ第一類地ニ開拓シタル土地、埋立地又ハ干拓地ニ付テハ之ヲ適用セス(追加大正三年法律第三十二號)

整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ノ完了スル迄從前ノ地目及地價ニ依リ之ヲ徵收ス

規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ第一項、第二項及第四項ノ整理施行地區ト看做ス

第十四條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其地區内

ノ民有土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地
ニ付開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ
對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正
地價總額ト之ニ對スル原地價總額トノ差額ノ
平均額ヲ五分ノ一ヲ超過スル面積ニ乘シタル
額ヲ原地價總額ニ加ヘタルモノヲ以テ前條第
一項ノ現地價トス
前項ノ場合ニ於テハ開墾シタル土地ニ付テハ
工事着手ノ年ヨリ二十年以上三十年以内、變
換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年
ノ耕地整理地價據置年期ヲ許可シ年明ノ年
ヨリ修正地價ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ開
墾シタル土地ニシテ年明ニ至リ工事完了又
ハ地味成熟セサルトキハ更ニ工事完了迄又ハ
二十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要ス
ル地目變換ハ之ヲ開墾ト看做ス
地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ
地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一
條第一項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工
事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設
定シ前條第一項ノ現地價トス
第二項ノ規定ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於
テ修正地價ニ依リ算出シタル地租額カ原地價

三百十
ニ依リ算出シタル地租額ヨリ少キ土地ニ付テ
ハ之ヲ適用セス（本條改正大正三年法律第三
十二號）
第十四條ノ二 耕地整理ノ施行ニ依リ其ノ地區
内ノ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ開拓シテ
第一項地ト爲シタルトキ又ハ國有ノ水面ヲ埋
立テ若ハ干拓シテ民有地ト爲シタルトキハ埋
立地又ハ干拓地ニ付テハ五十年以内其ノ他ノ
土地ニ付テハ十年以内ノ耕地整理新開免租年
期ヲ許可ス但シ年明ニ至リ地味成熟セサル
トキハ更ニ二十年以内ノ年期延長ヲ許可スル
コトヲ得（追加同上）
前項ノ場合ニ於テハ年明ニ至リ其ノ地價ヲ
設定シ其ノ年ヨリ地租ヲ徵收ス
第十五條 整理施行地區内ノ土地開墾著手後九
年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減
ニ關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ
左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル但シ工事完了ノト
キニ於テ地價ノ修正又ハ設定當時ノ現況ヨリ
第一類地ノ地目ニ變更シタル場合ニ於テハ開墾
又ハ地目變換ヲ爲シタルモノト看做シ第十四條第
一項ノ規定ヲ準用ス（但シ追加大正三年法律
第三十二號）（改正四十二年法律第四十四號）
一 開墾ヲ爲シタル土地又ハ墾下年期、新開
免租年期、地價據置年期ヲ有スル土地ハ工

事著手ノ際地價ヲ修正シ又ハ設定ス（同上）
二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地
ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地
價ヲ修正ス
三 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタ
ル土地ニ付テハ開墾著手後十年目又ハ年期
明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租
ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限
ニ在ラス（改正四十二年法律第四十四號）
四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號
ニ記載シタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設
定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス
第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾著手
後九年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル
年期ヲ有スルモノニシテ年期ノ終了セサル土
地又ハ第十四條ニ依リ年期ヲ許可シタル土地
アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正
地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又
ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政
府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條ニ依リ年期
中ハ其ノ金額ヲ控除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納
ムヘシ但協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之
ヲ定ム（改正四十二年法律第四十四號）
第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外
第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土

地ト看做ス
前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ
從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサス
第十八條 貸借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借
爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃
借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ
解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコ
トヲ得但シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依
リ賃借人ニ對シ求償スルコトヲ得
第十九條 耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨
ケラルルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又
ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコ
トヲ得
第二十條 耕地整理施行ノ爲者シク賃借地ノ利
用ヲ増シタルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ増
額ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約
ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得
第二十一條 耕地整理施行ノ爲地上權、永小作
權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト
能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地
役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得
第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第二百二十二條

整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ
耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス
耕地整理施行ノ爲地役權者カ其ノ權利ヲ行使
スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタル
トキハ其ノ地役權ハ消滅ス
耕地整理施行ノ爲從前同一ノ利益ヲ受クル
コト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益
ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求
スルコトヲ得

第二百二十三條

第十九條及第二十條ノ規定ハ地上
權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條

前六條ノ規定ニ依ル貸借ノ解除
地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若
ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價
ノ減額、拂戻若ハ増額ノ請求ハ第三十條第四
項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ
之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十四條

第十八條乃至第二十一條及前
二條ノ規定ハ地上權者、永小作權者又ハ賃借
權者ニシテ整理施行者又ハ組合員ト爲リタル
者ニ之ヲ適用セズ第二條ノ第二項ノ規定ニ
依リ同意ヲ爲シタル者ニ付亦同シヘ追加大正
三年法律第三十二號

第二百五條

整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ
シテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場

合ニ於テ第二十七條、第二十八條、第三十條第
一項、第二項又ハ第四十四條第二項ノ規定ニ
依リ拂渡スヘキ金錢アルトキハ整理施行者ハ
其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得
タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物
カ訴訟ノ目的タリ又ハ整理施行地區ニ編入後
訴訟ノ目的ト爲リタル爲訴訟當事者ヨリ請求
アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條

第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ
其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ
他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テ
ハ共同施行者連帶シテ其ノ責任ニ任ズ但シ規約
ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限リニ在ラス

第二百二十七條

整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必
要アルトキハ整理施行地區内ノ工作物又ハ木
石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破壊スルコトヲ得
但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二百二十八條

第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又
ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタ
ル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ前條ノ場合

第二百二十九條

整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕
地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認
可又ハ耕地整理組合ノ設立者ハ組合地區變更
ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許
可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物
ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件
ヲ附加増置シタルトキハ之ニ關スル損害ノ補
償ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十條

換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位
等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面
積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部
分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ
特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサル
モノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル
前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ
受ケヘシ

第三十一條

前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行
地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之

第三十二條

整理施行地二以上ノ市町村、大字
又ハ字ニ渉ル場合ニ於テ一筆ノ土地ノ區域ハ
二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ渉リテ之ヲ定
ムルコトヲ得ス

第三十三條

從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既
登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アル
トキハ之ニ對スル換地ノ交付ハ其ノ權利又ハ
處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指
定シテ之ヲ爲スヘシ(改正大正三年法律第三
十二號)

第三十四條

本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル
場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ
共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合
ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條

住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事
由ニ依リ耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲ス
コト能ハサル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依
リ整理施行者又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキ
ハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シタルモノ

準スヘキモノニ該當ス
第二章 耕地整理組合
第一款 總則

第四十一條 耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立スルコトヲ得

第四十二條 耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

第四十三條 耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テハ組合ハ其所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得(追加大正三年法律第三十二號)

第四十四條 左ニ掲グル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 御料地、國有地
二 官ノ用ニ供スル土地
三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

四 名勝地、舊蹟地
五 古墳墓地、墳墓地
六 社寺境内地

其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第八十七條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第四十五條 耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區内ニ土地ヲ所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
第四十六條 耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用ウヘシ
耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス
第四十七條 土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲其ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合ニ通知スヘシ(改正大正三年法律第三十二號)
前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第四十八條 前條ノ委任ノ終了ハ組合ニ通知アル迄之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第四十九條 第四十七條第一項ノ手續ヲ爲ササル土地共有者ニ對スル書類ノ送付、其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做ス

第五十條 耕地整理組合ノ設立及解散ハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者總

ト看做ス二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付ヲ了リタルモノト看做ス
第三十六條 第三十條第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十七條 整理施行地區内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ得

第三十八條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依リ耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ

前項ノ規定ニ依リ引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十九條 監督官廳ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ本法ノ規定ニ依リ職權ノ一部ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第四十條 本法中府縣、郡、市町村、郡長、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ

七 鐵道用地、軌道用地
八 建物アル宅地
登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官廳ノ認許ヲ得タルトキハ其ノ地上權又ハ永小作權者ヲ組合員ト爲シ其ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(追加同上)
第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ地上權者又ハ永小作權カ組合員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス(同上)
第四十四條 特別ノ價值又ハ用途アル土地ハ土地所有及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス
土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス
第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ

數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ
總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地
所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規約ヲ作り地方
長官ノ認可ヲ受クヘシ
第五十一條 耕地整理組合ハ前條地方長官ノ認
可ニ依リ成立ス
前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨
ヲ告示スヘシ
組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人
ニ對抗スルコトヲ得ス
第五十二條 組合設立ニ關スル費用ハ組合設立
ノ後組合ノ負擔トス
第五十三條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ
第二號ノ場合ニ於テ選了セサル組合債アルト
キハ此ノ限ニ在ラス
一 規約ニ定メタル事由ノ發生
二 目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能
三 總會ノ議決
四 合併
五 事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼キ
タルキ
六 普通水利組合ニ變更シタルトキ
七 組合員一人ト爲リタルトキ
八 監督官廳ノ處分
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四
號ニ該當スルトキテ除外其ノ旨ヲ告示スヘシ
第五十四條 組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更
組合ノ解散合併地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ
爲サムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ

三百十六
定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受ク
ヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同
意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ
減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲ス
コトヲ得ス
地方長官前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨
ヲ告示スヘシ
第五十五條 組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ
新ニ組合ノ地區ニ編入セラレヘキ土地アルト
キハ組合長ハ設計書案及規約案ヲ作り編入區
域ノ土地所有者ノ總會ヲ召集シ其ノ議決ヲ前
條ノ總會ノ議決ニ添付スヘシ
前項ノ總會ノ議決ヲ爲スニハ第五十條ノ條
件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所
ニ依リ土地所有者ノ代理人ヲ許スコトヲ得
第六十六條 規定ハ第一項ノ總會議決ニ之ヲ準
用ス
第五十六條 前條ノ總會議決ハ編入區域ノ土地所
有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第五十七條 規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス
合併ノ地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十三
條第二項又ハ第五十四條第二項ノ告示アル迄
之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス
第五十八條 組合ニ合併シタルトキハ合併ニ依
リ解散シタル組合ニ屬スル權利義務ハ合併後存
續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス
第五十九條 組合員一人ト爲リタル組合ノ解散
ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト

共ニ土地所有者ニ移轉ス
前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依ル
整理施行者ト看做ス
第六十條 組合解散シタルトキハ第五十三條第
一項第四號、第六號又ハ第七號ノ場合ヲ除ク
ノ外清算ヲ爲スヘシ
組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於
テハ仍存續スルモノト看做ス
第三款 組合ノ會議
第六十一條 別ニ規定アルモノノ外左ニ掲グル
事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ
一 第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處
分ヲ爲ス事
二 組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若
ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事
三 經費ノ收支豫算ヲ定ムル事
四 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義
務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事
五 組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又
ハ解任スル事
六 組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事
七 事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事

八百
八 工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル
事
九 訴訟、訴訟及和解ニ關スル事
十 規約ニ定メタル事項
十一 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタ
ル事項
第六十二條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ
權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組
合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得
第六十三條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨
時實施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムル
トキハ組合長ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其
ノ承認ヲ求ムヘシ但シ設計書、規約若ハ組合
地區ノ變更又ハ組合ノ解散若ハ合併ニ付テハ
此ノ限ニ在ラス
組合長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ
處分前評議員會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ
評議員ヲ置カサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラ
ス
第六十四條 總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス
第六十五條 總會ハ組合長之ヲ召集ス
三百十七

組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合
地區内ノ土地ノ總面積若ハ總地價ノ五分ノ一
以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記
載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求ス
ルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ召集スヘ
シ

第六十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日
前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組
合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急施ヲ要スル場合
ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得

第六十七條 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但
シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セ
サル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權
ヲ有セシムルコトヲ得

第六十八條 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ
除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表
決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十九條 第一號、第二號若
ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ第五十條ノ
條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令又ハ規約

ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第六十九條 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理
人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ表決權ヲ行フ者ハ出席者ト
看做ス

第七十條 第三十一條但書ノ規定ニ依リ第三十
條ノ處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ其ノ處
分ヲ爲サムトスル土地ニ關スル組合員ノ總會
議ヲ以テ總會ト看做ス

第七十一條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合
員ヲ選舉シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ
以テ總會ニ代フルコトヲ得

第七十二條 總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ
規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル
組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ
組合會ニ於テハ組合ノ解散又ハ合併ノ議決ヲ
爲スコトヲ得ス

第七十三條 組合ニ組合長一人及組合副長一人
又ハ數人ヲ置ク
組合長又ハ副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但
シ特別ノ事情アルトキハ組合員ニ非サル者ヨ

リ之ヲ選舉スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長
官ノ認可ヲ受クヘシ

組合長、組合副長共ニ關員ト爲リタルトキハ
地方長官ハ臨時代理人ヲ指定スルコトヲ得
地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ
指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ
組合長、組合副長又ハ臨時代理人ノ就任若ハ
解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗
スルコトヲ得ス

第七十四條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ
事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルト
キ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アルトキハ
其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第七十五條 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之
ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十六條 組合ニ評議員ヲ置ク但シ特別ノ事
情アル爲地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ
限ニ在ラス
評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス
評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ並業務及財産ノ

狀況ヲ監査ス

組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ
組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七十七條 組合長ハ設計書、規約、組合員名簿
會議ノ議事録其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿
ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ
組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳
簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場
合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五條 組合ノ財務

第七十八條 組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依
リ組合員之ヲ負擔ス

夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル
規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第七十九條 組合員ニシテ組合費第三十條第一
項、第二項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金額又ハ
延滞利息若ハ過剰金ヲ滯納スルトキハ市町村
ハ組合長ノ請求ニ依リ市町村税ノ例ニ依リ之
ヲ處分ス
前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分
ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ
第一項ノ徵收金ハ組合地區内ノ土地ニ關シ市
町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵

收金ニ次テ先取特權ヲ有ス
前三項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ
金錢ヲ滯納スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法
利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變
更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘ
シ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ
還了スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限り二
十年迄延期スルコトヲ得

第八十一條 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコ
ト能ハサルトキハ帝室及國ヲ除ク外組合員
ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ規約ニ
別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 監督

第八十二條 耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次
ニ地方長官、第三次ニ主務大臣之ヲ監督ス但
シ整理施行ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市
内ニ止ル場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第
二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十三條 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議
ノ表決又ハ整理施行者ノ行爲カ設計書、規約

組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項
若ハ第五十四條第二項ノ規定ニ依リ當該事項
ノ告示アリタル日ヨリ六十日以内ニ主務大臣
ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ
其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ
施行ヲ停止スルコトヲ得

第八十七條 第四十四條第二項ノ規定ニ依ル補
償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト
能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付
ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ
出訴スルコトヲ得

第八十八條 總會議、總會若ハ組合會ノ招集手
續若ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不
服アル者又ハ地上權者、永小作權者、賃借權者
若ハ豫約關係者カ整理施行者若ハ組合員ト爲
リタル場合ニ於テ第三十條第一項、第二項ノ
處分ニ對シ不服アル土地ノ所有者ハ其ノ表決
ノ日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ異議ヲ申立
ツルコトヲ得(改正大正三年法律第二十二號)

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳
ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依
リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ
停止スルコトヲ得

第八十九條 監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ

又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞ア
リト認ムルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合
長若ハ組合副長ヲ解任シ、評議員若ハ組合員
會議ノ改選、事業ノ停止若ハ組合ノ解散ヲ命
シ又ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八十四條 監督官廳ハ整理施行者ヲシテ耕地
整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類、帳簿
出納又ハ工事ヲ検査シ、設計書又ハ規約ノ變
更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又
ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ
發スル命令ノ規定ニ依リ認可申請ニ對シ申請
ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シ
テ認可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理ノ施
行者ハ整理施行地區ノ變更ニ異議ノ關係人
第四十三條若ハ第四十四條ノ規定ニ違反シテ
耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有
者若ハ關係人又ハ第三條第二項但書若ハ第五
十四條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權
者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區
變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ

條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項
ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示
スヘシ

整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル
處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處
分ノ解除ニ之ヲ準用ス

第九十條 耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ
移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又
ハ耕地整理組合ノ組合長若ハ組合副長本法又
ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ
規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第九十二條 耕地整理組合ノ組合長、組合
副長、臨時代理者、評議員又ハ組合會議員其ノ
職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約
束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不
正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲ササルト
キハ五年以下ノ懲役ニ處ス(追加大正三年法
律第三十二號)

サルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第九十一條ノ三 前條第一項ニ掲グルル者ニ對シテ賄賂ニ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

第九十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(四十二年勅令第二百三十號ヲ以テ四十二年十月十六日ヨリ施行)
現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍舊前ノ例ニ依ル
第九十三條 北海道ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ設クニ付テ得
第九十四條 本法施行前耕地整理ニ關シテ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス
第九十五條 本法第一條、第二條、第四條、第八條、第十條、第十七條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第四十條、第七十九條、第八十二條、第八十四條及第八十五條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シテ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス
第九十六條 本法施行前耕地整理施行ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依リ耕地整理

理組合ト爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ反セサル範圍内ニ於テ本法ノ規定ニ依リ設計書又ハ規約ト看做ス
第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス
第九十七條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十條ノ規定ニ依リ耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得
第九十八條 舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴訟ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依ル

耕地整理法施行規則

(農商務省令第三十九號)

第一章 總則

第一條 整理施行地區内ニ於テ土地ヲ所有スル者ニ非サレハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請者ト爲ルコトヲ得ス但シ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請書ニ付テハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ整理施行地區所在ノ市町村ニ事務所ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ其隣接市町村ニ設クルコトヲ得

事務所ニハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クヘシ
共同施行者若ハ組合員タルヘキ者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ其ノ氏名若ハ名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市町村長ニ届出ツヘシ

第四條 耕地整理法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ通知又ハ公告ニハ立入ノ目的、場所及期日ヲ示スヘシ
前項ノ公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ少ナクモ三日間之ヲ揭示スヘシ
第五條 整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於

テ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ非スシテ地租ヲ課セサル土地、耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地及一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ但シ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ
(改正大正元年十一月省令第二十二號)

第六條 耕地整理事業カ府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請書ニ其ノ團體ノ承認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得サル時ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七條 國有地又ハ府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル爲耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認可申請スル場合ニ於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第八條

- 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
 - 二 工事ノ計劃説明
 - 三 削除(大正元年十一月省令第二十二號)
 - 四 主要工事ノ仕様
 - 五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
 - 六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
 - 七 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖
 - 八 整理豫定圖
 - 九 工事ノ著手及完了ノ豫定期
 - 十 維持管理ニ要スルモノヲ除ク外工事費其ノ他ノ一切ノ費用及夫役現品ノ概算
- 但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ
(追加大正四年五月省令第八號)
- 第九條 規約ニハ耕地整理法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 事ノ範圍
 - 二 削除(大正元年十一月省令第二十二號)

三、四、五

- 三 耕地整理組合ニ在リテハ名稱
- 四 事務所ノ所在地
- 五 耕地整理組合ニ在リテハ組合長、組合副長及評議員ノ定數、選任、解任及任期ニ關スル規定、共同施行ニ依ル耕地整理ニシテ役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 六 會議ニ關スル規定
- 七 庶務及會計ニ關スル規定
- 八 補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 九 費用及夫役現品ノ分賦收入方法並延滞利息又ハ過怠金ニ關スル規定
- 十 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
- 十一 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分方法
- 十二 土地及干拓ノ價額評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 十三 數人共同シテ施行スル耕地整理ニ在リテハ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定

第十四條

- 豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受テタル者ノ權利消滅ノ場合ニ於ケル補償金徵收ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ規定
(追加四年五月省令八號)
- 十五 維持管理ヲ行フモノニ在リテハ其ノ規定(追加同上)
- 第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ヘ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ(改正大正元年十一月省令第二十二號)
- 一 整理施行地ノ屬スル郡、市町村並土地ノ字、番號及水面ノ位置、面積
- 二 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日
- 三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
- 四 耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價
- 五 工事ノ著手及完了ノ豫定期

第十條

- 整理施行地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ(追加大正四年五月省令第八號)
- 第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄稅務署長ニ届出ツヘシ(本條中四十三、年省令第五號ヲ以テ追加)
- 第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十二條ノ二 耕地整理法第十四條及第十五條第一號但書、第二號ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ要スル土地ニ付テハ整理施行者ハ從前ノ土地ノ字、番號、地目、面積及修正又ハ設置地價ノ見積額ヲ記シタル書面並從前ノ土地及工事施行後ニ於ケル土地各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ作り第十一條ノ規定ニ依ル工事完了ノ届出ト共ニ所轄稅務署長ニ之ヲ差出スヘシ但シ地價ノ見積ニ付テハ評議員ヲ置ク耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス(追加大正四年五月省令第八號)

第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シ

タル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及地

價配當案ヲ作ルヘシ

前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ

耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ

依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ

其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十三條ノ二 地上權者、永小權者、賃借權者又

ハ豫約開墾者カ整理施行者又ハ組合員タル場

合ニ於テ一人施行者又ハ共同施行者耕地整理

法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セ

ムトスルトキハ七日前ニ、耕地整理組合同條

第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲

ス總會又ハ總會議ヲ召集セムトスルトキハ同

時ニ其ノ旨ヲ土地所有者ニ通知スヘシ(追加

同上)

第十四條 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ

依ル認可申請書ニハ換地説明書、整理確定圖

及耕地整理組合ニ在リテハ總會又ハ總會議ノ

議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十五條 耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ

依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工

三百二十六

事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散

ノ爲工事ノ利益ヲ受クルコト能ハサル土地ニ

付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ

設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變

更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦

同シ

第十五條ノ二 耕地整耕地價据置年期又ハ耕地

整理新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ

工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ所

轄稅務署長ニ之ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ

整理施行者ハ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

(追加同上)

前項年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期

滿了後六十日以内ニ所轄稅務署長ニ之ヲ申請

スヘシ

耕地整理法第十四條ノ二ノ規定ニ依リ民有地

ト爲シタル土地ニシテ第一項ノ期間内ニ耕地

整理新開免租年期ノ申請ナキトキハ直ニ其ノ

地價ヲ定ム

第十六條 耕地整理法第三十條第三項ノ認可ア

リタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地

整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ

合ニ於テハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ

分割シタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但

シ甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ

乙登記所ノ管轄内ニ於テ換地ヲ交付シタルモ

ノアルトキハ其ノ牽聯スル從前ノ土地及換地

ハ換地説明書ノ分割シタルモノニ之ヲ表示ス

ヘシ(追加同上)

第十八條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ付

登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク

整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十九條 耕地整理法第三十條第一項、第二項

ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後同條第四項ノ

告示前ニ於テ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付

所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登

記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲

滞ナク同法第三十三條ノ指定ヲ爲シ地方長官

ノ認可ヲ受クヘシ(改正同上)

從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有

權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アル場合ニ於テ

耕地整理法第三十三條ノ指定ヲ爲サザリシモ

ノアルトキ亦前項ニ同シ

耕地整理法第三十四項ノ告示前ニ於テ換地

三百二十七

謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シテ所

轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ

第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依リ申

告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク所轄稅

務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施

行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ

證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ

記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十七條ノ二 土地整理法第三十條第四項ノ規

定ニ依ル認可ノ通知ハ通知書ニ左ニ掲クル書

類ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ認可ノ變更又ハ更

正アリタル場合亦同シ但シ其ノ添附書類ハ變

更又ハ更正アリタル部分ニ關スルモノヲ以テ

足ル(追加同上)

一 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル

認可書ノ謄本

二 整理施行者ノ氏名若ハ名稱、住所ヲ記載

シタル書面

三 換地説明書

四 整理確定圖

第十七條ノ三 前條第三號及第四號ノ書類ハ耕

地整理地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ渉ル場

ノ一部ニ該當スル從前ノ土地ニ付所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク同法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條ノ二、前條ノ規定ハ耕地整理登記令第八條ノ五但書ノ規定ニ依リ耕地整理法第三十條第四項ノ告示後登記ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業年度ハ一箇年トス
前項ノ事業年度ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度前經費ノ收支豫算ヲ定ムヘシ但シ初年度ニ於テハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可後遲滯ナク之ヲ爲スヘシ

第二十二條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度經過後遲滯ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ(改正大正元年十一月省令第二十二號)

年間、其ノ他ノモノニ付テハ五年間之ヲ保存スヘシ

一 耕地整理法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可、認許又ハ同意ヲ證スル書面

二 設計書

三 規約

四 土地原簿

五 權利者名簿又ハ組合員名簿

六 議事録

七 換地説明書

八 整理確定圖

九 事業報告書

十 收支決算書

前項ノ規定ハ明治四十二年勅令第二百三十一號第三條ノ規定ニ依リ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者カ耕地整理ニ關スル書類及帳簿ノ引繼ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本則中府縣、郡、市町村、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

三百二十八

第二十三條 耕地整理法第三十五條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ三日間送付スヘキ書類ノ要領ヲ揭示スヘシ

第二十四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理ノ事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼ク場合ニ於テ其ノ引繼完了シタルトキハ共同施行者又ハ耕地整理組合長ハ遲滯ナク其旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 耕地整理ノ業完了シ若ハ廢止セラレタルトキ又ハ耕地整理組合ノ清算終了シタルトキハ整理施行者又ハ組合長ハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市町村長ニ引渡スヘシ其ノ整理施行地區ニ以上ノ市町村長ニ引渡ルトキハ整理施行者又ハ組合長ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其書類及帳簿ヲ引渡スヘキ市町村長ヲ指定スヘシ

耕地整理法第五十三條第一項第五號ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 市町村長前條第一項ノ規定ニ依リ書類及帳簿ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ掲グルモノニ付テハ十

第二章 一人施行及共同施行

第二十八條 耕地整理法第三條第一項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スヘシ

一 一人ニテ耕地整理ヲ施行セムトスル者ニ在リテハ事業ノ範圍

二 第三十二條第一項乃至第三號ノ事項

三 整理施行者ノ員數

四 整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者、豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地又ハ水面ノ權利別、地目別ノ面積及地價若ハ假地價ニ改ム

五 耕地整理法第四十三條ノ土地アルトキハ其ノ表示

六 整理施行地區ヨリ特ニ除斥シタル土地アルトキハ其ノ事由

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書面ヲ添附スヘシ(改正四年五月省令第八號)

一 耕地整理法第四十三條第一項第一號ノ土地ニシテ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者カ其ノ土地ニ付整理施行者タ

ル場合ニ非サル土地、第二號及第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面

二 耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面

三 埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ許可ヲ證スル書面

第二十九條 耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ付テハ國ハ之ヲ整理施行者ト看做サス

第三十條 共同施行者ハ耕地整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者一人ヲ定メ耕地整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名、住所ヲ地方長官ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ代表者又ハ其ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合亦同シ

第三十一條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ハ耕地整理施行ノ認可アリタル後遲滞ナク土地原簿及權利者名簿ヲ調製スヘシ

第三十二條 土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理施行地ノ總面積及總地價

二 整理施行地ノ筆數、面積及地價ノ地目別合計

三 土地各筆ノ字、番號及地目並水面ノ位置

四 耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地、豫約開墾ヲ爲ス土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示

第三十三條 權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(改正同上)

一 整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者ノ氏名若ハ名稱、住所並其ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地ノ字、番號、地目、面積、地價、等位及權利ノ表示

二 整理施行者タル埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ氏名若ハ名稱、住所並其ノ權利ノ目的タル水面ノ位置及面積

三 土地又ハ水面ノ價額若ハ等位ヲ評定シ、面積ヲ實測シ又ハ假地價ヲ附シタルトキハ其ノ價額、等位、面積又ハ假地價

四 關係人又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領

五 整理施行者タル地上權者、永小作權者又ハ賃借權者ノ權利ノ目的タル土地ノ所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及土地ノ表示

六 工作物所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及工作物ノ表示

七 耕地整理法第二十五條第二項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名若ハ名稱、住所及訴訟ノ要領

第三十四條 土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更正スヘシ

第三十五條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セムトスル場合ニ於テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證ス

ル書面ヲ添附スヘシ

整理施行地區ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地所又ハ水面ノ整理施行者タルヘキ者又ハ整理施行者タル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ變更カ豫約開墾者又ハ埋立者ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ第二十八條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 一人ニテ施行スル土地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面及第二十八條第一項第三號、第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十七條 數人共同シテ施行スル土地整理ニシテ整理施行者カ一人ト爲リタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 第二十二條ノ規定ハ土地整理法第三條ノ規定ニ依ル土地整理事業完了シ若ハ廢

止セラレ又ハ之ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 耕地整理組合

第三十九條 耕地整理組合設立ノ認可申請書ハ土地原簿及組合員名簿ヲ調製スヘシ

第四十條 土地原簿ニハ第三十二條ニ掲グル事項ノ外耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示ヲ爲スヘシ

第四十一條 第三十三條ノ規定ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十二條 第三十四條ノ規定ハ耕地整理組合ノ土地原簿又ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十三條 耕地整理法第五十條ノ條件ヲ算定スル場合ニ於テハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ハ之ヲ算入セス

第四十四條 耕地整理組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スヘシ

一 第二十八條第一項第二號、第五號、第六號ノ事項及第三號、第四號ニ準スル事項

二 耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書面ヲ添附スヘシ

一 組合員タルヘキ者ニシテ組合設立ニ同意シタル者ノ總數及其ノ土地、水面ノ總面積及總地價並其ノ同意ヲ證スル書面

二 耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許又ハ同意アリタルコトヲ證スル書面

三 耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者、關係人及其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面

四 特別ノ價値又ハ用途ヲ有スル土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者及關係人ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得サルトキハ其ノ價値又ハ用途、土地所有者及關係人ノ氏名若ハ名稱並同意セサル事由及之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面

五 組合員タルヘキ地上權者、水小作權者、賃借權者又ハ豫約開墾者アルトキハ土地所有

者及賃貸人ノ同意ヲ證スル書面

六 埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ許可ヲ證スル書面

第四十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滞ナク總會ヲ召集スヘシ

前項ノ總會ニ於テハ組合長、組合副長、評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員ノ選舉並組合設立ニ關スル費用其ノ他必要ナル事項ニ付表決ヲ爲スヘシ

第四十六條 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ノ認可申請書ニハ總會、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ特別ノ事情ニ依リ組合員ニ非サル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ尙其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 組合長ノ就任アリタルトキハ組合設立ノ認可申請者ハ遲滞ナク組合ニ關スル一切ノ事務及書類、帳簿ヲ之ニ引繼グヘシ

第四十八條 耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依ル代表者アルトキハ組合長ハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ

第四十九條 組合員ハ百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス(改正大正元年十一月省令第二十二號)

組合會ヲ設ケムトスルトキハ規約中ニ議員ノ定數並任期及選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第五十條 組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第五十一條 組合會ニ於テハ第四十五條第二項ノ表決ヲ爲シ又ハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 組合會議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

第五十三條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ第六十一條第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ組合會議員總數ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 組合會議員ハ組合會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條 總會又ハ組合會ハ少ナクモ毎事業年度一回之ヲ開クヘシ

第五十六條 耕地整理法第五十五條第一項ノ總會議ニ於テハ編入區域ノ土地所有者ハ其ノ編入區域ノ土地所有者ニ非サル者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得ス

第五十七條 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合設立ノ認可申請者又ハ組合長ニ差出スヘシ

第五十八條 評議員ハ三人以上トス評議員ハ組合長又ハ組合副長ト相兼スルコトヲ得ス

第五十九條 評議員會ハ組合長之ヲ召集ス評議員總數ノ五分一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ召集ヲ請求シタルノキハ組合長ハ七日以内ニ之ヲ召集スヘシ

第六十條 組合設立ノ認可申請者、組合長、組合副長、評議員及組合議員ハ規約ニ別段ノ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第六十條ノ二 組合ハ耕地整理法第七十三條第四項ノ規定ニ依リ指定セラレタル臨時代理者ニ給料及旅費等ヲ支給スヘシ但シ臨時代理者官吏ナルトキハ給料ヲ支給スルコトヲ要セス

第六十一條 總會、總會議、組合會及評議員會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第四十五條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、耕地整理法第五十五條ノ總會議ニ在リテハ編入區域ノ土地所有者ノ一人之ニ當ル

第六十二條 總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事録ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ

第六十三條 總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事録ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ

第六十四條 耕地整理法第八十七條ノ規定ニ依リ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書ヲ、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第六十五條 耕地整理法第五十四條第一項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ノ事由及之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シ總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六十六條 組合ハ規約ヲ變更セムトスル場合ニ於テ組合債アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面、組合ノ解散セムトスル場合ニ於テハ尙事業報

三 議事ノ要領

四 表決シタル事項

五 賛否ノ數

土地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル表決ヲ爲ス總會又ハ總會議ノ議事録ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 組合ノ地區若ハ編入區域内ノ土地ノ所有者總數、總面積及總地價

二 賛成者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價

總會又ハ總會議ノ表決ニ付規約ノ規定ニ依リ特別ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ前二項ニ依リ記載ニシテ其ノ條件ヲ具備シタルコトヲ明カニスルコト能ハサルトキハ之ヲ示スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十三條 組合長ハ耕地整理法第五十五條ノ規定ニ依リ總會議ヲ開カムトスルトキハ召集ノ通知ヲ發スル日ヨリ少ナクモ十日前三日間編入區域ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ編入セムトスル區域及總會議ノ日時、場所及目的ヲ揭示スヘシ

告書及收支決算書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ規定ハ第二項第一號ヲ除クノ外地區變更ノ認可申請ノ場合ニ於テ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ變更カ豫約開墾者又ハ埋立若ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ總會議ニ代ヘタル場合ニ於テハ同意シタル土地所有者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ面積、地價ヲ記載シタル書面並其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六十五條ノ二 土地所有者ニ非シテ組合員タルヘキ者ハ第五十六條、第六十一條、第六十二條及前條ノ適用ニ付テハ之ヲ編入區域ノ土地ノ所有者ト看做ス(追加四年五月省令第八號)

第六十六條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第一號、第二號、第七號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ組合長又ハ最終ニ組合員タリシ者ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ添附シテ其ノ

三百三十六

旨ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第六十七條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第四號乃至第六號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ遲滞ナク組合長ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第六十八條 組合カ合併シタルトキハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 清算終了シタルトキハ組合長ハ遲滞ナク清算ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ總組合員ニ報告シ且之ヲ添附シテ清算終了ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年農商務省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第七十一條 耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ本則第四條、第十條、第十一條、第十二條ノ二、第十七條ノ二、第十七條ノ三、第十九條乃至第二

十三條、第二十七條及第三十八條ノ規定ヲ準用スルノ外舊則ノ規定ヲ適用ス但シ舊則第三十一條中農商務大臣トアルハ地方長官トス(改正大正元年十一月省令第二十二號)

第七十二條 耕地整理法施行前耕地整理ノ發起ノ認可ヲ得タル者ヲ耕地整理組合ト爲サムトスルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總會ヲ召集シテ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ並組合長 組合副長、評議員ヲ置クモノニ在リテハ評議員ヲ選舉シ總會ノ議事録ヲ添附シテ大正二年十月十五日迄ニ耕地整理組合ト爲スノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ(改正大正元年八月省令二號)

前項ノ總會ニハ耕地整理法及本則ノ規定ヲ適用ス
耕地整理法第七十三條第三項ノ認可申請ハ第一項ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス
第七十三條 前條ノ場合ニ於テ百人以上ノ參加土地所有者アルトキハ發起人又ハ整理委員ハ

總代選舉規則ヲ作りテ地方長官ノ認可ヲ得タル後其ノ選舉規程ニ依リ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ召集シ總會ニ代フルコトヲ得(改正大正元年十一月省令第二十二號)

前項ノ總代會ニハ耕地整理法第六十六條、第六十八條第一項並本則第五十二條、第五十三條及第六十二條第一項ノ規則ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ聚會又ハ總代會ニ在リテハ第七十二條ニ記載シタル事項ノ外必要ナル事項ヲ表決スルコトヲ得

第七十五條 耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ニシテ耕地整理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會議ヲ召集シ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事録ヲ添附シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第七十二條第二項及第七十三條ノ規定ヲ準用ス

三百三十七

第七十六條 第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第四十四條ノ規定ヲ準用ス

〔參照〕

明治三十三年六月農商務省令第十四號ハ耕地整理施行ノ認可アリタルトキ申告事項ノ件ナリ

附則

(大正四年五月省令第八號ニ對スル分) 本令ハ大正三年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前耕地整理法第三十條第三項又ハ舊耕地整理法第四十八條ノ認可アリタルモノニシテ未タ耕地整理法第三十六條ノ登記ノ申請ヲ爲ササルモノニ付テハ地方長官ハ第十七條ノ二及第十七條ノ三ニ準シテ管轄登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

●耕地整理登記令

(四十二年十月勅令第二百三十三號)

三百三十八

第一條 耕地整理法第三十七條ノ規定ニ依ル土地及建物ニ關スル登記ノ特例ニ付テハ本令ニ依ル

第二條 耕地整理ニ依ル土地ニ關スル登記ハ整理施行地區内ノ從前ノ土地既登記ナルカ又ハ從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シケル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキ換地ニ付之ヲ爲ス整理施行後其ノ上ニ既登記ノ地役權存續スヘキ換地ニ付亦同シ

第三條 削除(大正四年五月勅令第八十號)

第四條 土地ニ關スル登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ整理施行者又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一 從前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市區、町村、字土地ノ番號

二 從前ノ土地並換地ノ地目及段別若ハ坪數

三 換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若

法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四 耕地整理ニ因リテ登記ヲ申請スル旨

五 登記所ノ表示

六 年月日

第五條 換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ尙地役權換地ノ一部ニ付存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シタル圖面ヲ添付スヘシ

一 耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市區、町村、字及土地ノ番號

二 耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ地目及段別若ハ坪數

三 耕地整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四 地役權換地ノ一部ニ付存スルトキハ其ノ部分及符號

第六條 從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ申請書ニ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ交付シタル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號ヲ記載スヘシ(改正同上)

第七條 從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

(改正同上)

第七條ノ二 從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ未登記ノモノアルトキハ申請書ニ其ノ未登記ナル旨ヲ記載スヘシ未登記ノ從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ換地ニ地役權ノ登記アルトキ亦同シ(追加同上)

第八條 耕地整理ニ依ル土地ノ登記ノ申請ハ整理施行地區ノ全部ニ付同一ノ申請書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ノ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區毎ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ換地ニ付權利ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ必要トスルトキ其ノ他特別ノ事由アル場合ニ於テ整理施行地區内ノ一部ノ土地ニ付登記ノ申請ヲ爲スコトヲ妨ケス(追加同上)

前項ノ規定ニ依リ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ(追加同上)

整理施行地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ涉ル場合ノ申請ニ關シテハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル

三百三十九

第八條ノ二 耕地整理ニ依ル土地ニ關スル登記

ヲ申請スル場合ニ於テ必要アルトキハ整理施行者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代リ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第八條ノ三 不動産登記法第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八條ノ四 第八條ノ二ノ場合ニ於テハ登記原因及登記ノ目的カ異ナルトキト雖同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得(追加同上)

第八條ノ五 耕地整理法第三十條第四項ノ告示アリタル後ハ整理施行地區内ノ土地ニ關シテハ耕地整理ニ因リ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ申請人確定日附アル書面ニ依リ告示前ニ登記原因ノ生シタルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス(追加同上)

第九條 從前ノ土地一箇、對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ土地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示ヲ朱抹スヘシ

シ前ノ登記ヲ朱抹シ捺印スヘシ
第十條 從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ數箇ノ土地中其ノ一箇ノ登記用紙ニ於ケル表示欄ニ換地及從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ土地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ハ從前ノ數箇ノ土地中某土地ノミニ關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ(改正同上)

從前ノ數箇ノ土地中ニ未登記ノモノアルトキハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項

及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ
從前ノ土地ノ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地中其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タリシ部分ヲ指定シテ交付シタル換地ノ部分ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シタル旨ヲ附記シ之ニ相當スル從前ノ表示ヲ朱抹スヘシ(改正同上)

換地ニ地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中乙區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ但シ耕地整理ニ依リ其ノ登記中ニ記載シタル要地若ハ承役地ノ表示、地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ之ニ相當スル從前ノ表示ヲ朱抹スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ地役權ニ關スル登記アル土地ノ登記用紙中乙區事項欄ニ耕地整理ニ因リテ地役權ニ關スル登記ヲ登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載

欄ニ其ノ土地ヲ表示シテ所有權保存ノ登記ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙ニ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ其ノ土地ヲ指定シテ交付シタル換地ノ某部分ノミニ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ變更シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ
他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記ヲ移シ其ノ土地ヲ指定シテ交付シタル換地ノ某部分ノミニ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル旨、土地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ
第十一條ノ二 前條ノ規定ニ依リ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權其ノ他ノ權利ニ關スル登記ヲ移ス場合ニ於テ登記原因、其ノ日附、登記ノ目的及受附番號方同一ナルトキハ從前ノ土地ノ登記用紙ニ於ケル登記番號ノミニヲ轉

寫シ各登記番號ノ土地ニ付同一事項ノ登記アル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル（追加大正四年勅令第八十號）

第十二條 從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ爲シ他ノ換地ニ付登記何號ニ登記ヲ爲シタル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スヘシ（改正大正四年勅令第八十號）

第十三條 從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ相當區事項關ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ他ノ換地ニ付登記何號ニ登記ヲ爲シタル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ付テハ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ（改正同上）

又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル既登記ノ土地ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付シタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ（追加同上）

第十五條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ登記官吏ハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條 從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサル場合ニ於テハ登記官吏ハ土地ノ滅失ト看做シ登記用紙中表示欄ニ換地ヲ交付セサル事由ヲ記載シ土地ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ從前ノ土地他ノ土地ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ換地ヲ交付セサル事由ヲ附記シ其ノ土地ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中從前ノ土地ノ表示ヲ朱抹スヘシ

トキハ遲滯ナク前項ノ登記ヲ其ノ登記所ニ囑託スヘシ
前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ
第十八條 前二條ノ規定ハ耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ關スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル既登記ノ土地ノ整理施行地ノ所有者ニ交付シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ甲登記ハ既登記ノ土地ニ付テハ其ノ土地ニ關スル登記簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ移送シ未登記ノ土地ニ付テハ其ノ未登記ナル旨ヲ乙登記所ニ通知スヘシ但シ登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫スヘシ（改正同上）

第二十條 前條ノ場合ニ於テ從前ノ土地一箇ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ甲登記所ハ從前ノ土地ノ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

對シ一箇ノ換地ヲ交付シタルトキハ乙登記所ハ換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記ノ末尾ニ前登記區畫ヘ表示ヲ爲シ前登記番號及耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ登記簿ノ謄本ヨリ所有權ニ耕スル登記ヲ移シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記簿ノ謄本ニ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ耕スル登記アルトキハ登記官吏ハ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ登記簿ノ謄本ヨリ其ノ權利及處分ノ制限ニ關スル從前ノ登記ヲ移シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スヘシ(改正同上)

第二十一條 第九條第二項乃至第四項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地數箇ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ乙登記所ハ換

地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地及從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第九條第二項乃至第四項第十一條及第十一條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地一箇ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ數箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テハ乙登記所ハ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ其ノ登記ノ末尾ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號及耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第九條第二項乃至第四項及第十三條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ二 第十條及第二十二條ノ規定ハ甲乙兩登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地數箇ニ對シ乙登記所ノ管轄内ニ於テ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第二十三條ノ三 第十二條及第二十三條ノ規定

第二十四條ノ三 換地ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權其ノ他ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキハ現ニ效力ヲ有スル登記ノミヲ移シ又ハ轉寫スルトコトヲ得(追加同上)

第二十五條 從前ノ土地舊登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ本令ニ依リ登記用紙ヲ閉鎖スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ(改正同上)

第二十六條 耕地整理ニ依ル建物ニ關スル登記ハ土地整理施行ノ爲既登記ノ建物ノ分合、其ノ番號若ハ構造ノ變更、其ノ滅失、其ノ建坪ノ増減又ハ建物ノ新築アリタルトキ之ヲ爲ス登記シタル建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十六條ノ二 第八條ノ二乃至第八條ノ四ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十七條 耕地整理法第三十六條ノ規定ニ依リ建物施行者ノ爲スヘキ建物ニ關スル登記ノ申請ハ耕地ニ關スル登記ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 登記官吏土地及建物ニ關スル登記

ハ甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地一箇ニ對シ甲乙兩登記所ノ管轄内ニ於テ數箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第二十四條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ町村其ノ他登記簿ヲ分設シタル甲登記區畫ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ換地トシテ乙登記區畫ニ屬スル土地ヲ交付シタルトキハ登記官吏ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其ノ換地ニ關スル登記ヲ爲スヘシ

第二十條乃至第二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

乙登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ甲登記區畫ニ屬スル從前ノ土地ノ登記用紙ハ之ヲ閉鎖スヘシ

第二十四條ノ二 第二十三條ノ二及第二十三條ノ三ノ規定ハ同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ町村其他登記簿ヲ分設シタル甲乙兩登記區畫ニ屬スル從前ノ土地數箇ニ對シ換地トシテ乙登記區畫ニ屬スル一箇ノ土地ヲ交付シ又ハ甲登記區畫ニ屬スル從前ノ土地一箇ニ對シ換地トシテ甲乙兩登記區畫ニ屬スル數箇ノ土地ヲ交付シタル場合ニ之ヲ準用ス(追加同上)

ヲ完了シタルトキハ其ノ旨整理施行者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ通知ヲ受クヘキ者共同施行者ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミニ通知スルヲ以テ足ル

第二十九條 登記官吏第十五條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及従前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スヘシ

附則

第三十條 本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

整理地登記規則ハ之ヲ廢止ス
第三十一條 舊耕地整理法第四十八條ノ認可アリタル耕地ノ登記ニ關シテハ第七條乃至第八條ノ五、第十一條ノ二及第十六條乃至第二十四條ノ三ノ規定ヲ準用スルノ外整理地登記規則ヲ適用ス但シ同規則第三條第二號及第三號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス(改正同上)

附則 (大正四年五月勅令第八十號ノ分)

三百四十四ノ三

本令ハ大正四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ登記所ノ受附タル事件ハ従前ノ規定ニ依リ完結ス

●耕地整理登記令施行細則(四十二年十月)

(司法省令第二十一號)

第一條 耕地整理登記令ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 整理施行地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ涉ル場合ニ於テハ土地ニ關スル登記ノ申請ハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 削除(大正四年五月司法省令第四號)

第四條 耕地整理登記令第五條ノ規定ニ依リ登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ニハ土地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ヲ番號並方位及地役權ノ存スル換地ノ部分ノ段別若ハ坪數並其ノ部分ノ符號ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

第五條 耕地整理法第三十條第四項ノ規定ニ依ル地方長官ノ通知書及左ニ掲ケル添附書類ハ

之ヲ申請書ニ合綴シ別冊ト爲スヘシ(改正同上)

一 耕地整理法第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本

二 整理施行者ノ氏名、住所又ハ名稱及事務所ヲ記載シタル書面

三 換地説明書

四 整理確定圖

前項ノ通知書及第一號乃至第三號ノ書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ但シ耕地整理登記令第八條第二項ノ規定ニ依リ整理施行地區内ノ一部ノ土地ニ付登記ノ申請アリタル場合ニ於テハ最後ノ申請書受附ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第一項第四號ノ圖面ニハ番號ヲ附シ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第六條 第四條ノ圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及登記番號ヲ記載シ前條ノ書類ニ之ヲ合綴スヘシ(改正同上)

前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第六條ノ二 整理確定圖ニハ申請書受附ノ年月

三百四十四ノ三

本令ハ大正四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ登記所ノ受附タル事件ハ従前ノ規定ニ依リ完結ス

●耕地整理登記令施行細則(四十二年十月)

(司法省令第二十一號)

第一條 耕地整理登記令ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 整理施行地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ涉ル場合ニ於テハ土地ニ關スル登記ノ申請ハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 削除(大正四年五月司法省令第四號)

第四條 耕地整理登記令第五條ノ規定ニ依リ登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ニハ土地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ヲ番號並方位及地役權ノ存スル換地ノ部分ノ段別若ハ坪數並其ノ部分ノ符號ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

第五條 耕地整理法第三十條第四項ノ規定ニ依ル地方長官ノ通知書及左ニ掲ケル添附書類ハ

日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ整理施行地區内ノ一部ノ土地ニ付登記ノ申請アリタル場合ニ於テハ其都度之ヲ記載スヘシ(追加大正四年五月省令第四號)

第六條ノ三 第五條第三項ノ整理確定圖ノ番號ハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ第六條第二項ノ圖面ノ番號ハ乙區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ(追加同上)

第七條 耕地整理登記令第十一條第二項ノ場合ニ於テ未登記ノ従前ノ土地カ二箇以上ナルトキハ其ノ土地ヲ併記シテ所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得(改正同上)

第八條 耕地整理ニ因ル登記ヲ完了シタルトキハ従來ノ土地登記見出帳ノ全部又ハ一部ヲ改製スヘシ但シ整理施行地區内ノ土地寡少ナルカ爲改製ヲ要セサルトキハ不動産登記法施行細則第八條ノ規定ニ從ヒ見出帳ノ整理ヲ爲スコトヲ得(改正同上)

第九條 耕地整理登記令第八條ノ三、第十九條第一項、第二十六條ノ二、第二十八條、第二十九條及第三十條ノ通知事項、通知ヲ受クヘシ

三百四十四ノ四

キ者及ヒ通知ヲ發スル年月日ハ不動産登記法施行細則第十四條第十三號ノ通知簿ニ之ヲ記入スヘシ(改正五年省令二四號)

第十條 土地整理登記令第八條ノ三、第二十六條ノ二、第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ通知ハ郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十一條 土地整理登記令第二十九條ノ通知ハ換地力共同ナル場合ニ於テハ共有者ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第十二條 耕地整理法第九條ノ規定ニ依ル登記簿及其附屬書類ノ謄寫ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第十三條 土地整理登記令第八條ノ五但書ノ規定ニ依リ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ(追加同上)

附則
本令ハ明治四十二年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス

三百四十四ノ五

整理地登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス但シ第六條ノ二ノ規定ハ舊耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シテ仍效力ヲ有ス

◎土地臺帳規則

(明治二十二年三月勅令第三十九號)

第一條 耕地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及賃入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

◎土地臺帳規則施行細則

(明治二十二年四月大藏省令第六號)

(三十三年省令第二號及第二十七號、三十四年同第二十四號、三十七年同第六號及第八號、三十八年同第十二號、三十九年同第二十號ヲ以テ改正)

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者買取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主又ハ地上

權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々
之ヲ届出ツヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノ
ハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町付ハ
島廳郡役所ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓渡、下渡ニ係ルモ
ノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セ
ス

謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ
於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スル
コトヲ要ス

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左
ノ雜形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ(雜形略
ス)

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルト
キハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者

三百四十四ノ七
ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此
ノ限リニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ
設定、移轉、消滅若クハ地上權ノ期間ノ變更
ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登録セ
ス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ
因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移
轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ
河川法ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル場合ハ此
ノ限ニ在ラス
相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保
存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登
記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

●地租條例

(明治十七年三月太政官布告第七號)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百
七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル
條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢ス但東京府
管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣
根室縣」ハ當分從前ノ通りタルヘシ

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

田畑 地價百分ノ四箇五

其他ノ土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分
左ノ稅率ニ依ル

田畑 地價百分ノ三箇二

其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケ
タル價額ヲ謂フ(改正四十三年法律第一號)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、礦泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(二十
二年十一月法律第三十號ヲ以テ本項改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノ

ナ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變
換ト謂フ(追加四十三年法律第一號)

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ
開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押瀾、石
砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ
地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス
(改正三十八年法律第三十三號)

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル
公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル
土地但有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公
共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノ
ト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内
ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限
ニ在ラス

三 府縣社地鄉村社地招魂社地但有料借地ハ
此限ニ在ラス(改正四十三年法律第一號)

四 墳墓地

五 用器水路、溜池、隄塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地（改正四十二年法律第三十六號）

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限リニ在ラス
軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス（追加四十一年法律第三十六號）

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正）

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス（改正四十三年法律第二號）

三百四十六

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓墾下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租平期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ（削除四十二年法律第二號）

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ノ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ナシタルモノニ付テハ此限ニ在ラス（改正四十三年法律第二號）

第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限 地租額二分ノ一

日限 地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ（改正三十八年法律第三十三號）

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス（改正四十三年法律第二號）

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス（同上）

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限 地租額二分ノ一

第二期 翌年一月一日ヨリ同一月三十一日限 地租額二分ノ一

二 田

第一期 其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限 地租額四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限 地租額四分ノ一

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限 地租額四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限 地租額四分ノ一

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

又ハ其事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ
地租ヲ徵收セス(同上)

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地
トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期
ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納
期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ
ハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス
前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期
許可ノ場合又ハ荒地免租年期若クハ新開免
租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届
出ツヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以
テ本項改正)

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其
成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス(二十二年十
一月法律第三十號ヲ以テ本項追加)
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントス
ルトキハ政府ニ願出納下年期ノ許可ヲ受クヘ
シ納下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地
價ニ依リ地租ヲ徵收ス(同上)
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地
相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ

納下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ
地租ヲ徵收ス(同上)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土
地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス(同上)
地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要ス
ルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價
据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(同上)
但地價變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタ
ルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其
地租ヲ修正ス(追加四十二年法律第二號)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土
地又ハ開墾納下年期若クハ地價据置年期ノ許
可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目
變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合
ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ
依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部
又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌
年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ
其地租ヲ徵收ス(改正四十二年法律第二號)
前項 場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ
舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ
對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以

テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價ト
シ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其
地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(追加同上)

第十八條 削除(明治三十一年法律第三十號)

第十九條 納下年期明地價据置年期明新開免租
年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十
二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免
租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同
上)海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタル
モノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアル
ヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本
項追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況
原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下
ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス
(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改
正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復
シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目
ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正
ス(改正四十二年法律第二號)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀
ヲ存スルモノハ更ニ五年以内免租年期ヲ
定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期
明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以
内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原
地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、
海、湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ
又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事
項ヲ尋問スルコトヲ得(追加四十二年法律第
二號)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ
四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現
地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵
ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス
(改正四十二年法律第二號)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上
三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ
依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨ
三百四十九

リ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(同上)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(改正二十二年法律第三十號)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

◎地租條例施行規則

(明治四十三年二月勅令第四四號)

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム
第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

三百五十

一 別地目ト爲ルトキ
二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
四 所有者ヲ異ニスルトキ
五 質權ノ目的ト爲ルトキ
六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾着手後十年以内又ハ開墾前下期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ

其ノ地價ヲ修正ス
第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ墾下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘ

- 一 地目ヲ變地シ又ハ填類ヲ變換シタルトキ
 - 二 開墾ニ著手シタルトキ開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
 - 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ
 - 四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ
 - 五 地租ヲ課スル土地ノ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第三百五十二

第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (四十四年法律第二號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

第十五條 條例中地方廳へ差出ス可キ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

◎地租條件ニ依ル銀
下年期、新開免租
年期延長ニ關スル

件(明治三十四年四月十二日
法律第三十號)

地租條例ニ依リ銀下年期、新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾銀下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓銀下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス
地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎地租條例第四條第一號及第二號ニ依ル公共團體及期間指定ノ件

(三十八年五月勅令第五百十九號)

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

府縣組合、郡組合(改正大正三年八月勅令第五百七十三號)

水利組合、水利組合聯合(同上)

町村組合、市町村學校組合及町村學校組合、市町村内ノ區、學區(同上)

沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區内ノ部及間切島内ノ村

北海道地方費(追加三十九年勅令第五百三十三號)

北海道ノ區及區町村内ノ部(同上)

北海道土功組合(同上)

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供ス可キモノト定メタルトキヨリ一箇年トス

三百五十五

●國稅徵收法

(明治三十年三月法律第二十一號)

第一章

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノ、外總テ此ノ法律ニ依ル
第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ公課及債權ニ先ツモノトス
第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

三百五十六

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(改正三十五年法律第三十六號)
一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ルトキ
二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
三 強制執行ヲ受クルトキ
四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
五 競賣ノ開始アリタルトキ
六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
七 納稅人脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滯金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(改正四十四年法律第三十七號)
督促手數料延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滯金及滯納

處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(同上)

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)
國稅喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度トシテ國稅、督促手數料延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス(同上)

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一税目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(追加三十五年 律第三十六號)
第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セ

シムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(同上)

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)
納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス
第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(改正三十八年法律第四十六號)

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勸令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス
前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三百五十七

(改正四十四年法律第三十七號)

第三章

第十條 左ノ場合ニ於テハ收税官吏ハ納税者ノ財産ヲ差押フヘシ(改正三十五年法律第三十六號)

一 納税者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料延滞金及税金ヲ完納セサルトキ
二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納税者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收税官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收税官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收税官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合

三 相當スル金額及納告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其市町村ニ交付ス(改正三十二年三月法律第十二號)
第六條 國稅ノ徵收セントスルトキハ徵收官吏又ハ市町村ハ納税人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ
第七條 納税人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ
第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得
前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其免除ヲ爲スコトヲ得
第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收税官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス(改正三十五年法律第三十六號)
前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未ダ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルハキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ撰擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス(改正四十四年法律第三十七號)
一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料
第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ
第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收税官吏ハ前項ニ準

ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タル證據ヲ具ヘテ收税官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルル爲所意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ゲタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滯納者及其同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓
- 地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付帳
- 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル

シ處分スルコトヲ得
前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スル
ハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲナストキハ
滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家
族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ
者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成
丁者二人以上又ハ市町村吏員ハ市制町村制ヲ
施行セサル地ニ在リテハ區戸長及共ノ附屬吏
員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘ
シ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏
占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ
困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者
ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニ
スヘシ(改正三十五年法律第三十六號)
差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムル
コトヲ要セス

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅
官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ(同上)
前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登

録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登
録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更
ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタル
トキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ
囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ
亦同シ(追加三十八年法律第四十六號)
差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ
收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所
ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テ
モ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅
ヲ納ムルコトヲ要セス(同上)
第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券不動産
及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務
者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外
公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見
積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ
政府ニ買上グルコトヲ得
債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ
規定ヲ準用ス(追加三十八年法律第四十六號)

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用
ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ
賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ
關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ間
ハス其ノ賣却物件ヲ買受グルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運
搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨
及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付
ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滯納處
分費及税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯
納者ニ交付ス

賣却シタル物件、質權、抵當權ノ目的物タルト
キハ其代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納
處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツ
ルマテハ債權者ニ交付シ尙ホ殘餘アルトキハ
之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質
權抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金
ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費ヲ徵
シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテハ債權者ニ交
付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ

滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場
合ニ於テ會計財産ヲ以テ督促手數料延滞金、
滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無
限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ
交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シ
タルトキハ滯納義務及督促手數料延滞金滯納
處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則
第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有ス
ル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ
爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處ス
差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿
脱漏費消若ハ毀損シタルトキ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契
約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本
條ヲ適用セス

第五章

第三十三條 此ノ法律、明治三十年七月一日ヨ

リ施行ス（沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニ施行セス）

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市

町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收

法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

國稅徵收法施行規

則（明治三十五年四月勅令第三百三十五號）

第一條 收稅官東國稅ヲ徵收セントスルトキハ

納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官

三百六十一

吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及約付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到

ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ納稅告知書ニ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日以前之ヲ徵收セムトスルトキハ徵收官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ

領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書

ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納稅期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ

稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出

スヘシ 地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ稅金ノ納付ヲ了ラサ

ル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スル

コトヲ得ル國稅ハ左ニ掲グルモノニシテ納期ニ至リ稅金ノ徵收ヲ完ニスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料

三 釀醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更

シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前

二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又

ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促

ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合

ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ

滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ

此ノ限りニ在ラス（追加四十四年勅令第二八二號）

一 納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公

示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ

督促状ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徴收セ

第十二條

質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ナ差押フルトキハ收税官吏ハ督促手数料延滞金、滞納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十三條

民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ナ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ナ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條

差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收税官吏ハ其ノ財産所在地ノ收税官吏ニ滞納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條

差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滞納者ニ屬スル持分ニ就テ滞納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノ

第十八條

公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條

國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項（改正四十四年勅令第二八二號）
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ノ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條

財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條

公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收税官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條

公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過ヤタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價

トシテ處分スヘシ

第十六條 收税官吏財産ナ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ（改正四十四年勅令第二八二號）

- 一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收税官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第十七條

收税官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滞納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産ノミチ差押ヘタルトキハ此限ニ在ラス

格ヲ減損スルノ虞アルモノトナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條

財産ナ公賣セムトスルトキハ收税官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條

賣却シタル財産ニ付滞納者チシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收税官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ（改正三十八年勅令第六七號）

前項ノ期間内ニ滞納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收税官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條

入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人チシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條

財産ナ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積リ價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條

公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限

マテニ其ノ代金ヲ完納セザルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一條第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ督促手數料延滞金、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨グス

第三十條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滞納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 市制町村制ヲ施行セザル地方（稅務署所在地ヲ除ク）ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町内ノ國稅（酒類、酒精、酒精含有飲料、醬油、造石稅及麥酒稅ヲ除ク）ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セザル者アルトキハ戸長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

**耕地整理ニ關シ地
方長官へ委任ノ件**

（明治四十二年農商務省令第四十號）

第一條 耕地整理ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

一 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件

二 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル設計書若ハ規約ノ變更又ハ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ認可ニ關スル件

第二條 耕地整理法第五十一條第一項ニ規定シタル書類ハ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

**耕地整理事業ノ引
繼及耕地整理組合
ノ變更ニ關スル件**

（四十二年十月勅令第二百三十一號）

第一條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼カムトスルトキハ整理施行者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 事業ノ現況

二 引繼カムトスル事業及其ノ説明

三 引繼カムトスル事業ニ關スル權利義務ノ明細

四 引繼カムトスル事業ノ爲一年間ニ要スル經費ノ概算

前項ノ認可申請書ニハ共同施行者過半數ノ同意又ハ總會ノ議決アリタルコトヲ證明スル書面、引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合トノ協議一致ヲ證明スル書面協議一致セザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第二條 前條ノ規定ニヨリ協議一致セザル事由ヲ記載シタル書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合ノ意見ヲ徵シタル後ニ非サレハ其ノ引繼ヲ認可スルコトヲ得ス

第三條 事業ノ引繼アリタル場合ニ於テ共同施行ニ依ル耕地整理ノ殘務結了シ又ハ耕地整理組合ノ清算結了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク耕地整理事業ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ニ引繼クヘシ但シ二以上ノ郡、市町村又ハ水利組合ニ事業ヲ引繼キタル場合ニ於テハ整理施行